

函館市地域包括支援センターゆのかわ

(地域包括支援センター運営業務)

令和4年度（2022年度）活動評価

令和5年度（2023年度）活動計画

東央部第1圏域



— 目 次 —

1. 圏域の現状と課題	・・・	1
2. 重点活動	・・・	3
3. 令和4年度活動評価および令和5年度活動計画		
ア 地域包括支援センターの運営	・・・	4
(ア) 総合相談支援業務	・・・	4
(イ) 権利擁護業務	・・・	18
(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	・・・	22
(エ) 地域ケア会議推進事業	・・・	28
イ 生活支援体制整備事業	・・・	36
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務	・・・	36
ウ 認知症総合支援事業	・・・	40

圏域の現状と課題

1. 人口の推計と年齢構成

	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R4.9	割合	全市
年少人口	2,829	2,820	2,749	2,695	2,625	2,638	9.2%	9.1%
生産年齢人口	16,008	15,602	15,410	15,144	14,992	15,043	52.3%	54.2%
高齢人口	10,894	10,975	11,048	11,108	11,098	11,078	38.5%	36.7%
(再) 65～74歳	5,154	5,087	5,113	5,172	5,108	4,994	17.4%	17.3%
(再) 75歳以上	5,740	5,888	5,935	5,936	5,990	6,081	21.1%	19.4%

2. 世帯構成 (R4.9)

	世帯数	割合	全市
高齢者単身世帯	4,994	29.3%	26.3%
高齢者複数世帯	2,170	12.7%	13.2%
その他	9,895	58.0%	60.6%

3. 事業対象者・要支援認定者の状況

	R3.9	R4.9	全市
認定者数	1,070	1,055	7,481
認定率	9.6%	9.5%	8.3%
給付実績	693	696	4,690
給付率	6.2%	6.2%	5.2%

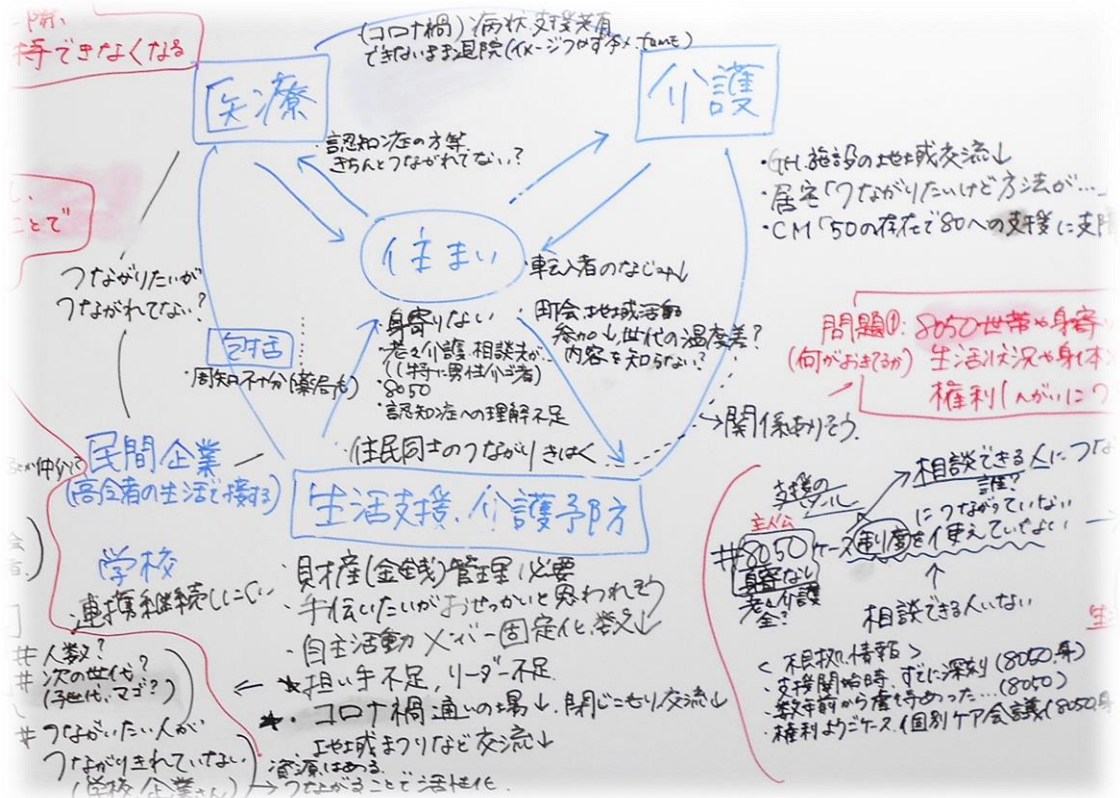
4. 介護保険サービス事業所数 (R4.9)

	事業所数
居宅介護支援等 (※1)	14
地域密着型サービス (※2)	20

※1 居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護事業所の件数

※2 地域密着型サービス事業所 (小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護を除く) の件数

5-(1). 地域課題抽出過程の見える化 (独自項目)



R5.3月 センター (市同席) での話し合いから

5-(2). 日常生活圏域レベルの地域課題の整理に基づく地域課題

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
1	地域包括支援センター（以下「センター」という。）について理解に差があり、早期相談につながらない	<ul style="list-style-type: none"> ・センターについて役割がわからない ・センターへの相談後のイメージがわからない ・各団体の集まりや勉強会等が減少 ・民生委員の世代交代がある ・先方の職員異動により理解に差がある 	高齢者に関わる人たちがセンターの役割を知ること で、気軽に相談しやすくなる
2	交流の減少により、地域の中で異変に気付けなくなっている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で既存の地域活動が減少 ・コロナ禍で個人での外出機会が減少 ・他人へ無関心 ・遠方家族の帰省回数の減少 ・独居高齢者の増加 	地域関係者が効果的な地域活動を行うことで、異変に気付ける
3	認知症の方を地域でみる体制が取れていない	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に対する負のイメージがある ・家族が地域に知られたくない思いあり ・交流減少により病気の方に気付かない ・初期段階がわからず介入に躊躇 ・交流機会減少で若い世代の関心が低下 	地域関係者が認知症の知識を深めることで、認知症の方への支援ができる
4	外出や交流する機会が減り、心身機能低下につながる	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外出や交流機会が減少 ・コロナ禍で地域活動やサークルが減少 ・家で過ごす時間の増加 ・近隣店舗の閉店により外出先が減少 	地域住民が自分に合った活動をすることで、機能低下を予防できる

重点活動

番号	地域課題	各業務での取組
1	高齢者に関わる人たちがセンターの役割を知ること、気軽に相談しやすくなる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関わる関係機関に対しセンターの役割機能を周知 ・金融機関、交番、薬局、商店、理美容、コンビニ等高齢者の立ち寄り先へ優先し周知 ・センターへ相談した後の対応の流れを周知 ・各団体の会議等へ出席した際、意識的にセンターを周知
2	地域関係者が効果的な地域活動を行うことで、異変に気付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（町会）のニーズや既存の地域活動について情報収集 ・必要時効果的な運営に向け提案、助言 ・ニーズがあるものの活動を躊躇している地域に対し、先駆的な取り組み事例を紹介するなどし助言 ・地域活動に携わる方へ”気付きのポイント”等を周知し早期相談介入につなげる
3	地域関係者が認知症の知識を深めることで、認知症の方への支援ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症についての正しい知識を多世代へ広く周知 ・高齢者に関わる関係者へ疾病の特徴や早期の気付きのポイント等について正しく周知 ・正しく認知症を理解する方が個人だけでなく、地域全体に関心が広がるように働きかける
4	地域住民が自分に合った活動をすることで、機能低下を予防できる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がセンターを窓口として活用できるよう周知 ・介護予防に関する社会資源について情報収集し、適時提示し取り組みを促す ・いきいき生活手帳など既存のサービスについて広く周知

令和4年度活動評価および令和5年度活動計画

ア 地域包括支援センターの運営

(ア) 総合相談支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第1号

【目的】地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者等の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関または制度の利用につなげる等の支援を行う。

事業内容	令和4年度 活動評価			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価
総合相談	○総合相談対応件数 (件)			
		R2年度	R3年度	R4年度
	実件数	1,112	1,214	1,356
	延件数	1,491	1,593	1,784
	○土日祝日相談対応件数 (件、%)			
		R2年度	R3年度	R4年度
	相談件数(延)	1,491	1,593	1,784
	土日祝日対応件数	46(3.1)	62(3.9)	104(5.8)
	土曜日	27(1.8)	37(2.3)	57(3.2)
	日曜日	6(0.4)	6(0.4)	6(0.3)
祝日	13(0.9)	19(1.2)	41(2.3)	
○相談形態内訳(延) (件)				
	R2年度	R3年度	R4年度	
電話相談	616	825	952	
来所相談	56	46	143	
訪問相談	782	705	671	
その他	37	17	18	
○対象者の年齢内訳(実) (件)				
	R2年度	R3年度	R4年度	
65歳以上	1,086	1,178	1,327	
65歳未満	26	36	29	
	<p>【活動目標】</p> <p>1. 様々な相談の受理から支援へと適切につなげることができる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受けた相談に対して、都度対応方法等を検討し適切に支援へとつなげることができた。 ・ 相談対応件数は例年に比べ増加し、特に来所での対応件数が増加した。これは令和4年度からセンター設置の独立移転に伴い来所しやすい環境になったと共に、相談者のニーズに合わせて電話回線の増設、複数来所時には相談室を活用し対応できたためと考える。 ・ 土曜祝日の相談件数は増加しており平日の来所が難しいご家族へも柔軟に対応することができた。また、65歳未満の方からも例年一定数相談を受けている。 ・ 再相談待ちのケースについては、センター内で共有し、対応方法等の検討を行った。必要時センターから連絡をとることで支援の必要性等を確認し、対応漏れを防ぐことができた。 ・ 今後は家族や地域住民、関係機関が高齢者の異変に早期に気づき、センターへの相談につながることで、支援が必要な方への早期介入ができるよう広く周知していくことが必要である。 ・ 各関係機関からの相談件数は、増加傾向である。これまでの広報活動の効果が徐々に浸透しているためと考えられ、次年度も関係機関に対してセンターの役割等、継続して周知が必要である。 ・ 職員間でセルフマネジメント支援について意識を持ち、見守り訪問等を利用し提案することができた。引き続き必要性の認識を高く持ち、セルフマネジメントを促し介護予防へつなげていきたい。 ・ 研修会はコロナ禍の影響もあり、オンラインでの研修開催が多い状況ではあったが、積極的な参加により昨年度に比べ参加件数は増加している。また、職員間で研修内容を共有することで学びや知識に差がでないようにした。次 			



令和5年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
1. 地域住民が個々の課題に合わせた適切な支援につながるることができる。	1. ①相談内容から課題を把握し、適切な情報提供や調整を行う。 ②緊急対応が必要なケースに対しては、すみやかに3職種を中心に支援内容の共有、支援方法を検討し対応する。 ③相談受理内容については、毎日のセンター内ミーティング時に共有し他の対応方法や不足な点等の検討、振り返りを行う。 ④再相談待ちのケースへの対応について検討する機会を設ける。 ⑤介護予防等に関する社会資源について情報収集し、適時ニーズに合わせた提案をする。 ⑥セルフマネジメント支援の対象となる方について、いきいき生活手帳の提案や社会資源の情報提供を行う。 ⑦各職員のスキルに合わせた研修会へ積極的に参加し、実践力を高める。 ⑧認知症ケアパスを積極的に活用する。	・相談対応件数 ・相談形態内訳 ・相談者の続柄内訳 ・セルフマネジメント支援提案件数 ・セルフマネジメント支援実施件数 ・認知症ケアパス配布数 ・研修会参加数

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																																																					
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																				
総合相談	<p>○相談者の続柄内訳（延・重複あり）</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本人</td> <td>900</td> <td>901</td> <td>930</td> </tr> <tr> <td>家族親族</td> <td>626</td> <td>664</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>町会・在宅福祉委員</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>知人・近隣住民</td> <td>47</td> <td>52</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>介護支援専門員</td> <td>158</td> <td>216</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所職員</td> <td>41</td> <td>32</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>医療機関職員</td> <td>135</td> <td>114</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>行政機関職員</td> <td>54</td> <td>27</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>警察・消防署職員</td> <td></td> <td>14</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>民間企業</td> <td></td> <td>15</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>36</td> <td>18</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>（その他内訳一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アパート大家 ・ 市営住宅管理人 ・ 絆メディカルグループ ・ 就労支援B型事業所あいりす ・ 函館市医師会健診検査センター ・ 相談支援事業所 結絆 ・ 家政婦 ・ 法テラス函館法律事務所 ・ 学校スクールカウンセラー ・ 函館市社会福祉協議会 		R2年度	R3年度	R4年度	本人	900	901	930	家族親族	626	664	650	民生委員	18	23	45	町会・在宅福祉委員	18	10	19	知人・近隣住民	47	52	55	介護支援専門員	158	216	190	介護保険事業所職員	41	32	37	医療機関職員	135	114	141	行政機関職員	54	27	39	警察・消防署職員		14	35	民間企業		15	32	その他	36	18	20	<p>年度も職員が適切に相談対応できるよう、継続して研修会等に参加したい。</p>
		R2年度	R3年度	R4年度																																																		
本人	900	901	930																																																			
家族親族	626	664	650																																																			
民生委員	18	23	45																																																			
町会・在宅福祉委員	18	10	19																																																			
知人・近隣住民	47	52	55																																																			
介護支援専門員	158	216	190																																																			
介護保険事業所職員	41	32	37																																																			
医療機関職員	135	114	141																																																			
行政機関職員	54	27	39																																																			
警察・消防署職員		14	35																																																			
民間企業		15	32																																																			
その他	36	18	20																																																			
	<p>○相談内容内訳（延・重複あり）</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護保険・総合事業</td> <td>1,089</td> <td>1,233</td> <td>1,274</td> </tr> <tr> <td>保健福祉サービス</td> <td>178</td> <td>152</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>介護予防</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>心身の健康</td> <td>48</td> <td>61</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>認知症</td> <td>95</td> <td>54</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>住まい</td> <td>80</td> <td>67</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>権利擁護</td> <td>26</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>安否確認</td> <td></td> <td>8</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>93</td> </tr> </tbody> </table> <p>（その他内訳一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気になる高齢者に関する情報提供 ・ センターで関わりがあるかの問い合わせ ・ 経済困窮 ・ 引きこもりの子と母に関する相談 ・ 近隣トラブル ・ 医療費貸付制度についての問い合わせ ・ マイナンバー申請 		R2年度	R3年度	R4年度	介護保険・総合事業	1,089	1,233	1,274	保健福祉サービス	178	152	220	介護予防	4	5	7	心身の健康	48	61	70	認知症	95	54	63	住まい	80	67	87	権利擁護	26	6	17	安否確認		8	18	その他	73	74	93													
	R2年度	R3年度	R4年度																																																			
介護保険・総合事業	1,089	1,233	1,274																																																			
保健福祉サービス	178	152	220																																																			
介護予防	4	5	7																																																			
心身の健康	48	61	70																																																			
認知症	95	54	63																																																			
住まい	80	67	87																																																			
権利擁護	26	6	17																																																			
安否確認		8	18																																																			
その他	73	74	93																																																			

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ア) 総合相談支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価							
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価						
総合相談	○セルフマネジメント支援数 (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セルフマネジメント支援</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>提案のみ</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度	セルフマネジメント支援	21	提案のみ	12	
		R4年度						
セルフマネジメント支援	21							
提案のみ	12							
(提案のみで終了した理由) <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできる、時間がかかる ・計画を立てるのが面倒 ・あえて計画を立てなくても自分で考えている ○研修会参加内容 (オンライン研修) <ul style="list-style-type: none"> ・はこだて医療・介護連携サマリー運用説明会2022 ・はこだて医療・介護連携多職種研修会 ・主任介護支援専門員フォローアップ研修会 (第34回、第35回) ・認知症地域支援推進委員研修 (新任者研修) ・社会福祉協議会を知れる講座 ・地域包括支援センター職員基礎研修 ・第21回全国福祉村サミットin函館 ・北海道オンライン道民健康セミナー～健康とお酒の深い関係～ ・令和4年度介護予防ケアマネジメント従事者研修 ・北海道高齢者虐待防止推進研修会【在宅編】 ・在宅医療の実際～地方部での実践事例～ ・社会福祉施設向けBCP作成のポイント ・令和4年度地域包括ケア担当職員セミナー (初任者研修) (対面研修) <ul style="list-style-type: none"> ・やればできる！福祉施設におけるICT・ロボット導入と働き方 ・令和4年度函館市「認知症初期集中支援チーム研修」伝達講習会 ・地域包括支援委員会「高齢者虐待対応研修」について ・北海道社会福祉会道南地区支部 評価シート研修 								

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
広報啓発及びネットワーク構築	○広報紙発行（年2回/8月、1月） (件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配布先数</td> <td>826</td> <td>859</td> <td>844</td> </tr> <tr> <td>掲示依頼数</td> <td>131</td> <td>130</td> <td>174</td> </tr> <tr> <td>新規配布先数</td> <td>19</td> <td>24</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> （新規配布先） 民間企業：ツルハドラック函館湯川西店 札幌ドラックストア函館花園店 クレドホテル函館 教育機関：株式会社スマイルキッズクラブ 北海道函館工業高等学校 函館深堀保育園 函館共愛会駒場認定こども園 函館市教育委員会 北海道函館聾学校 理美容院：函館理美容協会 ヘアーズサロンリンク サチ美容室 美容室たんぼぼ 訪問理美容ハート 障がい支援機関：ポラリス人見教室 音の森函館花園 さくらの一む湯川 ユニバーサル就労支援センター函館 就労継続支援B型事業所あいりす ファニー湯川 チョコゆのはま 函館視力障害センター 就労継続支援A型事業所つながり ジョブハウス心愛 就労支援機関：ジョブカフェジョブサロン 家族交流会：あさがお その他：湯川温泉旅館協同組合 函館成年後見センター いとう果物店 ラーメン八戒 越智ふとん店 やまびこ治療院		R2年度	R3年度	R4年度	配布先数	826	859	844	掲示依頼数	131	130	174	新規配布先数	19	24	33	【活動目標】 1. 地域住民や関係機関がセンターの役割や早期対応の重要性について知ることができる。 【評価】 ・広報誌に早期相談から支援に至った事例を掲載し、配布の際も説明を行うことで、地域住民や関係機関が早期相談の重要性について、周知できた。 ・配布前には職員間で説明内容の共有をし、説明内容に差が生じないよう留意した。 ・自立相談支援事業やセルフマネジメント支援等新しい事業は広報紙に掲載し周知を行った。また、新規配布先に障がい支援機関を追加した。 ・地域密着型運営推進会議への参加はコロナ禍により開催が無く2件となっている。 ・情報交換の場を持てるよう配布時はネットワーク構築を意識した関係者からの聞き取りや地域課題の抽出を意識的に行い、出前講座につなげることができた。 ・関係機関によっては、センターに対する理解や相談のタイミングについて認識に差がみられ、引き続き周知を続けることで、早期相談につながるよう取り組んでいきたい。 【活動目標】 2. 地域住民や高齢者の立ち寄り先の職員が、身近な相談窓口としてセンターを知り、早期相談につながるることができる。 【評価】 ・民間企業との関係構築から相談や問い合わせ件数は増加しており、目標は達成できた。 ・今年度、理美容室や地域に根差す商店を新規配布先へ追加し、センターの機能を周知した。買い物の際に高齢者が店主と話をする機会を持つ場面も多く、次年度も早期相談につながるよう、高齢者の立ち寄り先との連携を深める必要がある。 ・リーフレットの作成には至らなかったが、相談事例を掲載した広報紙を持参し周知することができた。 ・新規配布先13件を含む、高齢者の立ち寄り先としてのスーパー・コンビニ・金融機関にセンターに関するアンケートの実施を行った。結果、立地によりセンターの理解に差があることがわかった。しかし、警察関係や金融機関を含む民間企業からの相談件数が増加
		R2年度	R3年度	R4年度														
配布先数	826	859	844															
掲示依頼数	131	130	174															
新規配布先数	19	24	33															

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. 高齢者に関わる関係機関が、センターの役割について理解を深めることで早期相談につながるができる。</p> <p>2. 地域住民や家族が気軽な相談窓口としてセンターを知り活用することができる。</p>	<p>1.</p> <p>①広報紙やリーフレットを活用し、センターの機能、相談のタイミングや相談後のセンターの対応の流れ等について具体的に周知する。</p> <p>②高齢者に関係のある機関（スーパー、コンビニ、金融機関、交番、薬局、クリニック、商店、理美容室）への広報紙配布時に、意識的に情報交換の機会を持つ。</p> <p>③出前講座や地域密着型運営推進会議、地域密着型サービス事業所との意見交換の機会を活用し、早期相談のメリットや相談のタイミングの共有、気になる高齢者の有無等について確認する。</p> <p>④民生児童委員など高齢者に関わる方に対し、出前講座や広報紙配布時に認知症の特徴や早期の気づきのポイントについて正しい理解につながるよう周知する。</p> <p>2.</p> <p>①センターが地域の相談窓口として気軽に利用できるよう、広報紙等にわかりやすく記載する。</p> <p>②様々な世代が相談しやすいよう、土曜祝日も開所しニーズに合わせた対応をする。</p> <p>③同時に複数の来所相談に対応できるよう、相談室や集いの場を活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙配布先数 ・ 広報紙新規配布先 ・ 広報紙掲載内容 ・ 広報紙配布時の関係機関への声掛け数 ・ 出前講座回数 ・ 出前講座内容 ・ 地域密着型運営推進会議出席数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談対応件数 ・ 相談形態内訳 ・ 相談者の続柄内訳 ・ 土日祝日相談対応件数

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																																																																											
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																										
広報啓発及びネットワーク構築	○出前講座回数、内容 (回)	傾向にあり、今後もセンターの役割について理解を広められるよう効果的に展開し情報共有できる関係の構築に取り組みたい。 ・出前講座について、例年に比べ多く開催することができた。講座内容は事前に参加者や地域の特性を考慮し、ニーズに合わせて行うことでより理解を深められるよう実施した。地域での見守り活動、住民主体の助け合いについて伝えることで、意識が高まるよう働きかけた。 ・次年度は、地域住民や関係機関から複雑化する前の段階でセンターへ相談につながるよう、気軽な相談窓口としてセンターの周知を引き続き行っていきたい。 ・前年度まで広報啓発・ネットワーク構築としていた項目について、総合相談の目的と一致すること、また地域住民や関係機関への周知、関係構築が相談件数の増加、適切な支援へとつながることから総合相談の目標と合わせた上で取り組んでいきたいと考える。																																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出前講座回数</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td> 包括について</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td> 介護保険制度</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td> 新しい総合事業</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td> 在宅高齢者等サービス</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 住宅改修</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 権利擁護</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 虐待</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 消費者被害</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 成年後見</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 地域ケア会議</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 介護予防</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td> 認知症</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td> 地域での見守り活動</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td> 地域の社会資源</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 相談シート</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 住民主体の助け合い</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(その他内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉拠点について ・新型コロナウイルスについて ・いきいき手帳について ・介護実技について ・車いす体験 ・高齢者体験 			R2年度	R3年度	R4年度	出前講座回数	11	13	24	包括について	4	2	18	介護保険制度	3	2	10	新しい総合事業	3	1	12	在宅高齢者等サービス	1	0	2	住宅改修	3	1	1	権利擁護	4	6	2	虐待	3	4	1	消費者被害	1	1	1	成年後見	0	1	0	地域ケア会議	0	0	1	介護予防	4	6	11	認知症	4	2	9	地域での見守り活動	5	1	11	地域の社会資源	1	0	2	相談シート	0	0	0	住民主体の助け合い	2	1	14	その他	1
	R2年度	R3年度	R4年度																																																																									
出前講座回数	11	13	24																																																																									
包括について	4	2	18																																																																									
介護保険制度	3	2	10																																																																									
新しい総合事業	3	1	12																																																																									
在宅高齢者等サービス	1	0	2																																																																									
住宅改修	3	1	1																																																																									
権利擁護	4	6	2																																																																									
虐待	3	4	1																																																																									
消費者被害	1	1	1																																																																									
成年後見	0	1	0																																																																									
地域ケア会議	0	0	1																																																																									
介護予防	4	6	11																																																																									
認知症	4	2	9																																																																									
地域での見守り活動	5	1	11																																																																									
地域の社会資源	1	0	2																																																																									
相談シート	0	0	0																																																																									
住民主体の助け合い	2	1	14																																																																									
その他	1	1	7																																																																									

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																																																																																													
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																																												
実態把握	<p>○利用者基本情報作成状況</p> <p style="text-align: right;">(件、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>1,150</td> <td>1,097</td> <td>1,015</td> </tr> <tr> <td>目標達成率</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>86%</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">作成数</td> <td>予防給付</td> <td>506</td> <td>444</td> <td>378</td> </tr> <tr> <td>(再)新規</td> <td>70</td> <td>50</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>見守り</td> <td>53</td> <td>95</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>(再)新規</td> <td>43</td> <td>38</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>370</td> <td>397</td> <td>378</td> </tr> <tr> <td>(再)新規</td> <td>175</td> <td>165</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>合計(A)</td> <td>929</td> <td>936</td> <td>870</td> </tr> <tr> <td>(再)新規</td> <td>288</td> <td>253</td> <td>294</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口(B)</td> <td>11,101</td> <td>11,112</td> <td>10,988</td> </tr> <tr> <td>実態把握率 (A/B)</td> <td>8.4%</td> <td>8.4%</td> <td>7.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○町別実態把握数（町別老年人口に対する実態把握率）</p> <p style="text-align: right;">(件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>深堀町</td> <td>133(7.6)</td> <td>※179(10.2)</td> </tr> <tr> <td>駒場町</td> <td>39(6.0)</td> <td>※64(10.3)</td> </tr> <tr> <td>湯浜町</td> <td>69(7.7)</td> <td>67(7.8)</td> </tr> <tr> <td>湯川町1丁目</td> <td>65(8.3)</td> <td>63(8.1)</td> </tr> <tr> <td>湯川町2丁目</td> <td>53(6.3)</td> <td>56(6.8)</td> </tr> <tr> <td>湯川町3丁目</td> <td>79(8.1)</td> <td>73(7.6)</td> </tr> <tr> <td>花園町</td> <td>99(8.2)</td> <td>※114(9.6)</td> </tr> <tr> <td>日吉町1丁目</td> <td>※66(10.5)</td> <td>43(7.0)</td> </tr> <tr> <td>日吉町2丁目</td> <td>※112(11.3)</td> <td>55(5.6)</td> </tr> <tr> <td>日吉町3丁目</td> <td>※134(11.3)</td> <td>81(6.7)</td> </tr> <tr> <td>日吉町4丁目</td> <td>※72(10.0)</td> <td>34(4.7)</td> </tr> <tr> <td>川原町</td> <td>37(7.8)</td> <td>※44(9.2)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※見守り訪問対象地区</p>		R2年度	R3年度	R4年度	目標数値	1,150	1,097	1,015	目標達成率	80%	85%	86%	作成数	予防給付	506	444	378	(再)新規	70	50	64	見守り	53	95	114	(再)新規	43	38	71	その他	370	397	378	(再)新規	175	165	159	合計(A)	929	936	870	(再)新規	288	253	294	高齢者人口(B)	11,101	11,112	10,988	実態把握率 (A/B)	8.4%	8.4%	7.9%		R3年度	R4年度	深堀町	133(7.6)	※179(10.2)	駒場町	39(6.0)	※64(10.3)	湯浜町	69(7.7)	67(7.8)	湯川町1丁目	65(8.3)	63(8.1)	湯川町2丁目	53(6.3)	56(6.8)	湯川町3丁目	79(8.1)	73(7.6)	花園町	99(8.2)	※114(9.6)	日吉町1丁目	※66(10.5)	43(7.0)	日吉町2丁目	※112(11.3)	55(5.6)	日吉町3丁目	※134(11.3)	81(6.7)	日吉町4丁目	※72(10.0)	34(4.7)	川原町	37(7.8)	※44(9.2)	<p>【活動目標】</p> <p>1. 支援を必要とする人が、早期に適切な支援につながるができる。 (目標数値：1,015件)</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握から早期に支援の必要性を検討し、適切な支援につなげることは一定数できたが、基本情報作成数については8割強の作成率となり未達成である。 ・予防給付数の減少に関しては、センター内職員の異動に伴い、委託数が増加したことによると考えられる。新規作成数は、予防給付、見守り訪問では一定数把握できているが、その他では減少しており、意識的な聞き取りが必要である。 ・必要時、民生児童委員と対象者の状況等を共有し、また、実態把握の際に支援の必要の有無をアセスメントすることで介護サービス等につなげることができた。中には早急に支援が必要なケースもあり、今後も意図的に聞き取りを行う事で早期に介入できるよう努めたい。 ・町別老年人口に対する実態把握に関しては、地域によって差がある。把握率が低い地域に関しては重点的に関わっていく必要がある。 ・実態把握時、今すぐに介護サービスが必要ない方に対しても介護保険等の制度について説明を行うことで必要時、スムーズに支援につながるよう情報提供を行った。 ・同居家族への聞き取りは数件に留まりができていない。対象者のみならず、同居家族への情報収集することで、早期の実態把握に向け意識的な聞き取りが必要である。
		R2年度	R3年度	R4年度																																																																																										
目標数値	1,150	1,097	1,015																																																																																											
目標達成率	80%	85%	86%																																																																																											
作成数	予防給付	506	444	378																																																																																										
	(再)新規	70	50	64																																																																																										
	見守り	53	95	114																																																																																										
	(再)新規	43	38	71																																																																																										
	その他	370	397	378																																																																																										
	(再)新規	175	165	159																																																																																										
合計(A)	929	936	870																																																																																											
(再)新規	288	253	294																																																																																											
高齢者人口(B)	11,101	11,112	10,988																																																																																											
実態把握率 (A/B)	8.4%	8.4%	7.9%																																																																																											
	R3年度	R4年度																																																																																												
深堀町	133(7.6)	※179(10.2)																																																																																												
駒場町	39(6.0)	※64(10.3)																																																																																												
湯浜町	69(7.7)	67(7.8)																																																																																												
湯川町1丁目	65(8.3)	63(8.1)																																																																																												
湯川町2丁目	53(6.3)	56(6.8)																																																																																												
湯川町3丁目	79(8.1)	73(7.6)																																																																																												
花園町	99(8.2)	※114(9.6)																																																																																												
日吉町1丁目	※66(10.5)	43(7.0)																																																																																												
日吉町2丁目	※112(11.3)	55(5.6)																																																																																												
日吉町3丁目	※134(11.3)	81(6.7)																																																																																												
日吉町4丁目	※72(10.0)	34(4.7)																																																																																												
川原町	37(7.8)	※44(9.2)																																																																																												

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. 支援を必要とする人が、早期に適切な支援につながる ことができる。 (目標数値：941件)</p>	<p>1. ①対象者の生活実態や課題等を広く把握するため、同居する家族等の実態把握を行う。 ②見守りネットワーク事業の打ち合わせ等を活用し、地域とつながりのある民生児童委員と連携をとり、実態把握の増加に努める。 ③見守りネットワーク事業の訪問時には必要性等を説明し、できるだけ聞き取りができるよう意識して行う。 ④センター内で定期的に実態把握進捗状況の確認を行い、把握漏れのないよう意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者基本情報作成数 ・目標数値達成率 ・利用者基本情報作成の内訳 ・実態把握後支援につながった件数 ・同居家族の実態把握数 ・町別実態把握数

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																		
実態把握	<p>○実態把握から支援につながったケース ・見守り訪問</p> <table border="1"> <caption>見守り訪問の実績</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実態把握のみ41件 (※支援の必要性なし)</td> <td>60</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>制度説明9件</td> <td>30</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>介護サービス4件</td> <td>10</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>在宅高齢者等サービス</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他10件</td> <td>0</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3	R4	実態把握のみ41件 (※支援の必要性なし)	60	75	制度説明9件	30	15	介護サービス4件	10	20	在宅高齢者等サービス	10	0	その他10件	0	20	
	項目	R3	R4																	
	実態把握のみ41件 (※支援の必要性なし)	60	75																	
制度説明9件	30	15																		
介護サービス4件	10	20																		
在宅高齢者等サービス	10	0																		
その他10件	0	20																		
<p>・予防支援、見守り以外の訪問</p> <table border="1"> <caption>予防支援、見守り以外の訪問の実績</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実態把握のみ36件 (※支援の必要性なし)</td> <td>40</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>制度説明31件</td> <td>35</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>介護サービス137件</td> <td>175</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>在宅高齢者等サービス54件</td> <td>45</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>その他26件</td> <td>10</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R3	R4	実態把握のみ36件 (※支援の必要性なし)	40	50	制度説明31件	35	45	介護サービス137件	175	180	在宅高齢者等サービス54件	45	75	その他26件	10	30		
項目	R3	R4																		
実態把握のみ36件 (※支援の必要性なし)	40	50																		
制度説明31件	35	45																		
介護サービス137件	175	180																		
在宅高齢者等サービス54件	45	75																		
その他26件	10	30																		
<p>(その他内訳内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待疑い ・ケアマネジャーへの支援 ・経済的困窮 ・専門医受診調整 ・セルフマネジメント支援 																				

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(イ) 権利擁護業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第2号

【目的】高齢者等が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者等の権利擁護のため、必要な支援を行う。

事業内容	令和4年度 活動評価																																																									
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																								
困難事例への対応	○権利擁護相談対応状況 (件)	<p>【活動目標】</p> <p>1. センターの対応力を向上することで高齢者やその家族が効果的な支援を受けやすくなる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターの対応力向上の取り組みは、実践できたと考えているが、より職員個々の対応力の差を埋める事が必要と感じている。 ・権利擁護ケースについて相談受付時においてに再相談となった待ちケースについて、適切と考えられる期間やアプローチの必要性について検討できている。 ・複数職員体制をとり、支援方法について必要時に共有・意見交換を実施できたが、より職員相互のスキルアップにつながるよう、実施方法を検討していきたい。 ・複合的課題が想定されるケース等に関して具体的支援展開につなげ検討する事ができた。 ・センター内勉強会については、3回の実施ができた。特に支援困難事例の振り返りについては、今後も複数回の実施により対応力の向上につなげたい。 ・対応時の職員の不足な点については、伝えあうことができています。 ・今後もより工夫を重ねながら、継続して、センターの対応力の底上げに取り組んでいく必要がある。 																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数（実）</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>（再）終結数</td> <td>22</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>（再）終結率</td> <td>71.0%</td> <td>33.3%</td> <td>35.3%</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度	R3年度	R4年度	ケース数（実）	31	36	17	（再）終結数	22	12	6	（再）終結率	71.0%	33.3%	35.3%																																									
		R2年度	R3年度	R4年度																																																						
	ケース数（実）	31	36	17																																																						
	（再）終結数	22	12	6																																																						
	（再）終結率	71.0%	33.3%	35.3%																																																						
	○複合的課題ケース（想定されるケースも含む） (件)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ケース概要</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>親：高齢者 + 子：引きこもり</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>親：高齢者 + 子：障がい者</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>親：高齢者 + 子：精神障がい</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>親：高齢者 + 子：知的障がい</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>親への経済依存</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>親の介護 + 子育て</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	ケース概要	R3年度	R4年度	親：高齢者 + 子：引きこもり	3	2	親：高齢者 + 子：障がい者	2	0	親：高齢者 + 子：精神障がい	6	3	親：高齢者 + 子：知的障がい	0	2	親への経済依存	1	1	親の介護 + 子育て	0	0	その他	0	1	合計	12	9																													
	ケース概要	R3年度	R4年度																																																							
	親：高齢者 + 子：引きこもり	3	2																																																							
	親：高齢者 + 子：障がい者	2	0																																																							
親：高齢者 + 子：精神障がい	6	3																																																								
親：高齢者 + 子：知的障がい	0	2																																																								
親への経済依存	1	1																																																								
親の介護 + 子育て	0	0																																																								
その他	0	1																																																								
合計	12	9																																																								
○研修会・事例検討会の参加 (回)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者虐待</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>困難事例</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>消費者被害・成年後見</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度	R3年度	R4年度	高齢者虐待	1	2	2	困難事例	0	0	2	消費者被害・成年後見	0	1	0																																									
	R2年度	R3年度	R4年度																																																							
高齢者虐待	1	2	2																																																							
困難事例	0	0	2																																																							
消費者被害・成年後見	0	1	0																																																							
○センター内研修会（3回実施）	<p>①自立相談支援機関の業務について</p> <p>②高齢者虐待の初動期対応について</p> <p>③支援困難事例の振り返り</p>																																																									
○相談者、通報者内訳（実・重複あり） (件)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者本人</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>家族・親族</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>（再）同居</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>（再）別居</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>町会・在宅福祉委員</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>知人・近隣住民</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>介護支援専門員</td> <td>0</td> <td>11</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>介護職員</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>警察・消防</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不明匿名</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他（民生委員含む）</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度	R3年度	R4年度	対象者本人	6	3	1	家族・親族	10	11	3	（再）同居	4	5	1	（再）別居	6	6	2	町会・在宅福祉委員	0	0	1	知人・近隣住民	4	3	1	介護支援専門員	0	11	7	介護職員	3	3	0	病院	2	2	2	行政	2	2	0	警察・消防	1	2	1	不明匿名	1	1	0	その他（民生委員含む）	3	3	1	<p>【活動目標】</p> <p>2. 地域住民や地域の関係機関職員が、権利擁護に関する相談をしやすくなるように、センターの機能や支援内容を周知する。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型サービス事業所等の介護事業所を除き、一定程度の周知を図る事ができたと考える。 ・権利擁護に関する相談内容について、広報紙の内容に反映させて、様々な機会での共有を図ることができた。 ・地域密着型サービス事業所については運営推進会議が、感染防止の観点から通常通りの開催とはならない状況が続いており、研修会開催も含め共有する機会を設定出来なかった。 ・早期相談のメリットに関して、広報紙のテーマに取り上げ、広報を実施することができた。 ・今後は、未実施だった関係機関への広報について実施していく必要がある。
	R2年度	R3年度	R4年度																																																							
対象者本人	6	3	1																																																							
家族・親族	10	11	3																																																							
（再）同居	4	5	1																																																							
（再）別居	6	6	2																																																							
町会・在宅福祉委員	0	0	1																																																							
知人・近隣住民	4	3	1																																																							
介護支援専門員	0	11	7																																																							
介護職員	3	3	0																																																							
病院	2	2	2																																																							
行政	2	2	0																																																							
警察・消防	1	2	1																																																							
不明匿名	1	1	0																																																							
その他（民生委員含む）	3	3	1																																																							

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. センターの対応力を向上することで高齢者やその家族が効果的な支援を受けやすくなる。</p> <p>2. 地域住民や地域密着型サービス事業所等の職員が、センターの権利擁護業務の支援内容を理解することで、相談しやすくなる。</p>	<p>1.</p> <p>①相談受付後のミーティングにおいて、アプローチの方法や支援展開について継続して検討、共有を行う。</p> <p>②複数職員体制で担当している支援困難ケースにおいて、職員相互のスキルアップにつながるよう、共有及び検討方法を見直して実施する。</p> <p>③複合的課題があると想定されるケースについて自立相談支援機関と共に圏域内ケアマネジャー等とのケース共有を実施し、早期介入を検討する。</p> <p>④対応事例について、社会資源及び効果的な対応について定期的に共有する機会を持つ。</p> <p>⑤センター内勉強会の実施により、制度面等の理解を強化する。</p> <p>2.</p> <p>①地域住民に対して、消費者被害の防止、早期相談にむけた安心メール等の情報提供手段の周知を実施する。</p> <p>②センターへの相談内容やタイミングについて、地域密着型サービス事業所や在宅サービス事業所と次のような機会に共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護（虐待防止・成年後見制度）研修会の開催時 ・運営推進会議の出席時 <p>③地域住民に対し、センターへ早期相談するメリットについて、相談例や支援した経過等を広報する機会を検討、実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護相談対応件数 ・複合的課題ケース件数 ・研修会や事例検討会の参加回数 ・センター内研修や事例検討会の実施回数 ・相談・通報者内訳 ・対応事案内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の周知回数 ・地域密着型及び在宅サービス事業所との共有回数

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和4年度 活動評価																																																													
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																												
困難事例への対応	<p>○対応事案内訳（実・重複あり）</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表面化した問題</td> <td></td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td> 高齢者虐待</td> <td></td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td> 意思決定ができない</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 支援拒否</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 生命の危険がある</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td> 日常生活に支障がある</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td> 受診拒否</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 必要な医療が受けられない</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 服薬管理ができない</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td> 金銭管理ができない</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td> 経済、生活が破綻</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 必要なサービスを利用できない</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td> 不適切な支援を受けている</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年度からの新規項目（報告様式の変更による）</p>		R2年度	R3年度	R4年度	表面化した問題			40	高齢者虐待			8	意思決定ができない			1	支援拒否			2	生命の危険がある			3	日常生活に支障がある			6	受診拒否			2	必要な医療が受けられない			1	服薬管理ができない			3	金銭管理ができない			6	経済、生活が破綻			1	必要なサービスを利用できない			3	不適切な支援を受けている			1	その他			3	
	R2年度	R3年度	R4年度																																																											
表面化した問題			40																																																											
高齢者虐待			8																																																											
意思決定ができない			1																																																											
支援拒否			2																																																											
生命の危険がある			3																																																											
日常生活に支障がある			6																																																											
受診拒否			2																																																											
必要な医療が受けられない			1																																																											
服薬管理ができない			3																																																											
金銭管理ができない			6																																																											
経済、生活が破綻			1																																																											
必要なサービスを利用できない			3																																																											
不適切な支援を受けている			1																																																											
その他			3																																																											
ネットワークの構築	<p>○ 担当弁護士への相談内容内訳</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談内容</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借金問題</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>相続</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>近隣問題</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>労働問題</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>離婚</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不動産</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>成年後見</td> <td></td> <td></td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年度からの新規項目（報告様式の変更による）</p> <p>○ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先医療機関 <ul style="list-style-type: none"> 病院：3箇所 函館渡辺病院・函館共愛会病院 函館中央病院 クリニック：1箇所（多田内科） 精神科：6箇所 なるかわ病院・亀田北病院・富田病院 かとうメンタル、いとうメンタル ゆのかわメンタル ・その他の連携機関 <ul style="list-style-type: none"> 民間企業：深堀郵便局、はこだて調剤薬局湯川店 函館環境衛生 警察：函館方面函館中央警察署、湯川交番 函館方面函館西警察署 行政機関：高齢福祉課、障がい保健福祉課 亀田福祉課、湯川福祉課 司法関係：ゆめかなえ法律事務所 その他：成年後見センター、湯川中学校 マーク商事（アパート管理会社） 函館市地域生活支援センター、民生児童委員 	相談内容	R2年度	R3年度	R4年度	借金問題			3	相続			3	近隣問題			4	労働問題			0	離婚			0	不動産			3	成年後見			11	その他			6	合 計			30	<p>【活動目標】</p> <p>3. 関係機関が、センター業務の理解を深めることで、ネットワークの構築強化につながる。</p> <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を通じた連携先関係機関について一定程度、センター業務に関しての理解を図る事が出来て、ネットワークの強化につながったと考えている。 ・連携した機関に対して、広報紙等についてタイムリーに配布して、連携につながるよう実施し、継続した配布としている。 ・成年後見センターとの連携についてはケース対応時の連携以外は、取り組めていない。 ・函館弁護士会の契約弁護士との定期的な相談機会を有効に活用して、ケース支援につなげる事ができた。 ・支援ケースを通じて利用した社会資源制度に関して、都度ミーティングで共有して取り組むことができた。また、年度内のケース振り返りの場において、社会資源について再確認できた。 ・圏域内のクリニックからの相談が入る仕組みについて、社会福祉士部会において、リーフレットを作成中であり、次年度配布する予定である。 ・次年度は、成年後見センター及び圏域内のクリニックに対するネットワーク構築の取り組みが必要と考える。 																				
相談内容	R2年度	R3年度	R4年度																																																											
借金問題			3																																																											
相続			3																																																											
近隣問題			4																																																											
労働問題			0																																																											
離婚			0																																																											
不動産			3																																																											
成年後見			11																																																											
その他			6																																																											
合 計			30																																																											

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>3. 連携先関係機関とセンターが、相互の業務内容について正確に理解することで、ネットワークの構築強化につながる。</p>	<p>3. ①成年後見制度への繋ぎの際の成年後見センター、法テラスの活用に向けて、効率的に進められるよう連携強化を図る。 ②担当弁護士との定期的な相談機会について、勉強会の実施も含め、より相互理解ができるよう検討実施する。 ③支援ケースを通じて利用した関係機関について、センターの業務内容への理解を深めて頂けるよう周知を図る。 ④圏域内クリニックからの相談が入るよう、リーフレットを活用して、クリニックへの広報活動を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当弁護士への相談内訳数 ・ケース対応時の連携機関数

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第3号

【目的】高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における多職種相互の連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

事業内容	令和4年度 活動評価																																																																																				
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																																			
介護支援専門員に対する個別支援	○ケアマネジャーへの個別支援状況（実） (件)	<p>【活動目標】</p> <p>1. ケアマネジャーが自身の支援内容を振り返り、課題を意識した上で支援内容を検討できるようになる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別支援を行ったケアマネジャーについては、自身の課題を意識し支援内容を検討することができていた。 ケアマネジャーと共に支援内容を振り返り、その後の支援内容についても複数回共有確認する対応をしたため個別支援の平均対応月数は前年より増加したが、ケアマネジャーが自ら次の支援内容を十分に検討する機会にできた。 必要に応じて複数体制で支援を行い多角的に対応しており、今後も同様な支援体制を維持し早期解決につなげる。 今年度より圏域内で主任ケアマネ連絡会を立ち上げ、連携しやすい関係構築を図っている。R4.9.14の主任ケアマネ連絡会では圏域主任ケアマネジャーの担当ケースの事例検討会、事例紹介を行い対人援助技術の学びの機会とした。次年度も主任ケアマネ連絡会を定期開催し事例検討会等の機会を作る。 個別支援件数は減っているが支援に至った要因は、ケアマネジャーの対人援助技術が上位になっており、次年度も引き続き勉強会等のテーマとして取り組む。 <p>【活動目標】</p> <p>2. ケアマネジャーが地域の支援者や他機関の専門職と連携することで視野を広げた支援ができるようになる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーへの個別支援において他機関や地域支援者との連携体制を作ることができ、ケアマネジャーが広い視野を持ち支援できるようになった。 相談内容から必要に応じて個別の地域ケア会議の開催につなげており（2件）地域支援者と連携し多面的な支援に向けた関係構築ができた。また主任ケアマネ連絡会にて地域ケア会議に触れ、地域支援者につながる機会に役立ててもらおうよう提案している。 R4.9.14主任ケアマネ連絡会にて、措置入院制度や不動産担保型生活資金制度の情報提供を行った。またR5.2.14ケアマネジメント研修にて実際の後見人に講師として参加頂き成年後見制度について学ぶ機会とできた。 																																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数</td> <td>26</td> <td>21</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td> 終結数</td> <td>26</td> <td>21</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td> 終結率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>個別支援平均対応月数</td> <td>2.1ヶ月</td> <td>1.6ヶ月</td> <td>2.9ヶ月</td> </tr> </tbody> </table>			R2年度	R3年度	R4年度	ケース数	26	21	13	終結数	26	21	13	終結率	100%	100%	100%	個別支援平均対応月数	2.1ヶ月	1.6ヶ月	2.9ヶ月																																																															
			R2年度	R3年度	R4年度																																																																																
	ケース数		26	21	13																																																																																
	終結数		26	21	13																																																																																
	終結率		100%	100%	100%																																																																																
	個別支援平均対応月数		2.1ヶ月	1.6ヶ月	2.9ヶ月																																																																																
	○ケアマネジャーへの支援内容（重複あり） (件)		<p>【活動目標】</p> <p>2. ケアマネジャーが地域の支援者や他機関の専門職と連携することで視野を広げた支援ができるようになる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーへの個別支援において他機関や地域支援者との連携体制を作ることができ、ケアマネジャーが広い視野を持ち支援できるようになった。 相談内容から必要に応じて個別の地域ケア会議の開催につなげており（2件）地域支援者と連携し多面的な支援に向けた関係構築ができた。また主任ケアマネ連絡会にて地域ケア会議に触れ、地域支援者につながる機会に役立ててもらおうよう提案している。 R4.9.14主任ケアマネ連絡会にて、措置入院制度や不動産担保型生活資金制度の情報提供を行った。またR5.2.14ケアマネジメント研修にて実際の後見人に講師として参加頂き成年後見制度について学ぶ機会とできた。 																																																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報提供</td> <td>15</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>助言・指導</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>連携のための支援</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>連携（民生委員）</td> <td>※2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>対応の振り返り</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※印の数字：個別支援の件数には計上されていない。</p>				R2年度	R3年度	R4年度	情報提供	15	2	5	助言・指導	19	14	8	連携のための支援	3	2	1	連携（民生委員）	※2	2	0	対応の振り返り	7	5	6																																																										
				R2年度	R3年度	R4年度																																																																															
情報提供	15	2		5																																																																																	
助言・指導	19	14		8																																																																																	
連携のための支援	3	2		1																																																																																	
連携（民生委員）	※2	2		0																																																																																	
対応の振り返り	7	5		6																																																																																	
○支援に至った要因（重複あり） (件)	<p>【活動目標】</p> <p>2. ケアマネジャーが地域の支援者や他機関の専門職と連携することで視野を広げた支援ができるようになる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーへの個別支援において他機関や地域支援者との連携体制を作ることができ、ケアマネジャーが広い視野を持ち支援できるようになった。 相談内容から必要に応じて個別の地域ケア会議の開催につなげており（2件）地域支援者と連携し多面的な支援に向けた関係構築ができた。また主任ケアマネ連絡会にて地域ケア会議に触れ、地域支援者につながる機会に役立ててもらおうよう提案している。 R4.9.14主任ケアマネ連絡会にて、措置入院制度や不動産担保型生活資金制度の情報提供を行った。またR5.2.14ケアマネジメント研修にて実際の後見人に講師として参加頂き成年後見制度について学ぶ機会とできた。 																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアマネジャーの問題</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td> 対人援助技術</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td> 支援の不足</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 過剰な支援</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>対象者の問題</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td> 認知症による</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 精神疾患による</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 支援拒否</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 不適切な要求</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 気質・性格の問題</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>対象者家族の問題</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 認知症による</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 精神疾患による</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 支援拒否</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 不適切な要求</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 気質・性格の問題</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地域資源・社会資源</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 連携の意識がない</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 連携先分からない</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td> 連携方法分からない</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				R2年度	R3年度	R4年度	ケアマネジャーの問題	12	13	7	対人援助技術	7	9	5	支援の不足	5	3	1	過剰な支援	0	1	2	対象者の問題	11	5	8	認知症による	5	2	2	精神疾患による	2	2	0	支援拒否	3	0	1	不適切な要求	0	0	2	気質・性格の問題	1	1	5	対象者家族の問題	7	7	0	認知症による	0	1	0	精神疾患による	1	2	0	支援拒否	3	0	0	不適切な要求	1	0	0	気質・性格の問題	2	4	0	地域資源・社会資源	2	4	1	連携の意識がない	1	1	0	連携先分からない	1	1	0	連携方法分からない	0	2
		R2年度	R3年度	R4年度																																																																																	
ケアマネジャーの問題		12	13	7																																																																																	
対人援助技術		7	9	5																																																																																	
支援の不足		5	3	1																																																																																	
過剰な支援		0	1	2																																																																																	
対象者の問題		11	5	8																																																																																	
認知症による		5	2	2																																																																																	
精神疾患による		2	2	0																																																																																	
支援拒否	3	0	1																																																																																		
不適切な要求	0	0	2																																																																																		
気質・性格の問題	1	1	5																																																																																		
対象者家族の問題	7	7	0																																																																																		
認知症による	0	1	0																																																																																		
精神疾患による	1	2	0																																																																																		
支援拒否	3	0	0																																																																																		
不適切な要求	1	0	0																																																																																		
気質・性格の問題	2	4	0																																																																																		
地域資源・社会資源	2	4	1																																																																																		
連携の意識がない	1	1	0																																																																																		
連携先分からない	1	1	0																																																																																		
連携方法分からない	0	2	0																																																																																		
○相談者 (件)	<p>【活動目標】</p> <p>2. ケアマネジャーが地域の支援者や他機関の専門職と連携することで視野を広げた支援ができるようになる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーへの個別支援において他機関や地域支援者との連携体制を作ることができ、ケアマネジャーが広い視野を持ち支援できるようになった。 相談内容から必要に応じて個別の地域ケア会議の開催につなげており（2件）地域支援者と連携し多面的な支援に向けた関係構築ができた。また主任ケアマネ連絡会にて地域ケア会議に触れ、地域支援者につながる機会に役立ててもらおうよう提案している。 R4.9.14主任ケアマネ連絡会にて、措置入院制度や不動産担保型生活資金制度の情報提供を行った。またR5.2.14ケアマネジメント研修にて実際の後見人に講師として参加頂き成年後見制度について学ぶ機会とできた。 																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>相談者</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護支援専門員</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>本人</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>家族</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域支援者</td> <td>※2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>知人</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>介護事業所</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事業所管理者</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※印の数字：個別支援の件数には計上されていない。</p>		相談者	R2年度	R3年度	R4年度	介護支援専門員	14	4	3	本人	2	4	5	家族	7	10	2	地域支援者	※2	2	0	知人	1	0	2	介護事業所	0	1	0	事業所管理者	2	0	2																																																				
相談者		R2年度	R3年度	R4年度																																																																																	
介護支援専門員		14	4	3																																																																																	
本人		2	4	5																																																																																	
家族		7	10	2																																																																																	
地域支援者		※2	2	0																																																																																	
知人		1	0	2																																																																																	
介護事業所		0	1	0																																																																																	
事業所管理者		2	0	2																																																																																	

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. ケアマネジャーが自身の支援内容を振り返り、課題等を理解した上で次の支援に活かすことができる。</p> <p>2. ケアマネジャーが支援にかかわる他機関の情報や役割を理解することで支援の視野を広げることができる。</p>	<p>1.</p> <p>①ケースについて、早期のケアマネジャーへの状況確認や同行訪問等により、共に課題分析を行うことで、ケアマネジャー自身が課題を明確にして対応できるよう支援を行う。複数職員体制で対応することにより、支援展開の視野を広げ、早期終結につなげる。</p> <p>②ケアマネジメント業務や制度改革に伴う相談や質問は、センター内で共有・協議し、根拠を示しながら都度丁寧な対応を心がけ返答を行う。</p> <p>③ケアマネジャーに対する支援を行うというセンターの役割について周知し、より身近な相談窓口であることが伝わるよう広報を行う。</p> <p>④圏域内のケアマネジャーの対人援助技術向上に反映できるよう、研修会や勉強会の中で、事例を用いて学ぶ機会を作る。</p> <p>2.</p> <p>①ケースにより、多職種、多機関からの専門的な意見や制度の確認を行いながら、支援の視野が広げられるよう支援を行う。</p> <p>②地域の支援が必要なケースについては、早期に個別の地域ケア会議等の開催を提案し、地域関係者との連携体制の構築につなげる。</p> <p>③圏域内のケアマネジャーが地域とのつながりを作る機会として、地域課題の検討を行う地域ケア会議への案内を行い、地域支援者や関係機関と意見交換を行う場を提供する。</p> <p>④圏域内の居宅介護支援事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所等へ訪問またはアンケートを実施し、事業所が抱える課題を把握し必要な情報提供等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討や地域ケア会議が必要なケースについて確認を行う。 ・民生児童委員、地域支援者、町会等の活動内容を知る機会を作り、協働での支援体制の構築に役立てる。 ・介護保険外の公的支援制度（障がいサービスや成年後見制度等）について学ぶ機会を作る。 <p>⑤ケースの積み上げにより、ケアマネジャー及び連携する側の課題を抽出し、勉強会等のテーマを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談に至った要因 ・ケアマネジャーの課題の背景 ・支援の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・他機関との勉強会や懇談会の有無 ・個別の地域ケア会議につながった数 ・互いに確認された課題の有無

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																																																																													
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																												
介護支援専門員に対する個別支援	<p>○圏域内の居宅介護支援事業所等アンケート実施（13事業所） （重複回答あり）（件）</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">支援困難と感じるケース</th> </tr> <tr> <td>成年後見制度活用</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>独居身寄り無し</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>家族が近くにいない</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>認知症対応</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>医療の問題</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>支援拒否</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>経済困窮</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>精神的問題</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>苦情や過剰な要求</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>老老介護</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>80-50問題</td> <td>1</td> </tr> </table>	支援困難と感じるケース		成年後見制度活用	4	独居身寄り無し	7	家族が近くにいない	4	認知症対応	1	医療の問題	1	支援拒否	3	経済困窮	8	精神的問題	1	苦情や過剰な要求	2	老老介護	4	80-50問題	1	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の居宅介護支援事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所へ訪問及びアンケートを実施した。依然「介護保険外の公的支援制度」と「地域支援者との交流」について取り上げて欲しいとの希望が多く、次年度も引き続きケアマネジャーが多方面の関係者と連携し支援内容を展開していけるよう研修会等を開催する。 ・R5.2.20民生児童委員と圏域の主任ケアマネジャーとの懇談会を実施し、互いの役割や機能について知る機会があればいいと意見があり、次年度の勉強会等のテーマとして取り組む。 																																																				
	支援困難と感じるケース																																																																													
成年後見制度活用	4																																																																													
独居身寄り無し	7																																																																													
家族が近くにいない	4																																																																													
認知症対応	1																																																																													
医療の問題	1																																																																													
支援拒否	3																																																																													
経済困窮	8																																																																													
精神的問題	1																																																																													
苦情や過剰な要求	2																																																																													
老老介護	4																																																																													
80-50問題	1																																																																													
包括的・継続的ケアマネジメント体制の構築	<p>○合同ケアマネジメント研修開催状況 （回）</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>・圏域内の参加状況：居宅介護支援事業所（全域との比較） （件、人）</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">圏域内</th> <th colspan="2">全域</th> </tr> <tr> <th>事業所</th> <th>ケアマネ</th> <th>事業所</th> <th>ケアマネ</th> </tr> <tr> <td>参加数</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>77</td> <td>188</td> </tr> <tr> <td>参加率</td> <td>70.0%</td> <td>32.1%</td> <td>79.3%</td> <td>62.4%</td> </tr> </table> <p>・アンケート結果 （件）</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">今後どのような研修を受講したいか</th> </tr> <tr> <td>ヤングケアラー、ケアラー</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>地域ケアシステムについて</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>インフォーマルサービス</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>社会資源、地域とつながる連携</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>認知症対応</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>事例検討会</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>対人援助技術</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>家族支援</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>精神疾患について</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>A C P</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ターミナルケア、看取り</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>生活保護制度</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>障がい保健サービスについて</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>他職種連携</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>医療連携、訪問診療</td> <td>3</td> </tr> </table> <p>○圏域内のケアマネジメント研修開催状況 （件）</p> <table border="1"> <tr> <td>テーマ</td> <td>本人の望む暮らしによりそう支援</td> </tr> <tr> <td>連携状況</td> <td>居宅介護支援事業所・社会福祉士事務所</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">参加事業所数</td> <td>圏域内</td> </tr> <tr> <td>居宅介護支援事業所</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小規模多機能事業所</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>圏域外事業所</td> <td>居宅介護支援事業所</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>18名（会場 5名 ZOOM13名）</td> </tr> </table>		R2年度	R3年度	R4年度	開催回数	2	2	2		圏域内		全域		事業所	ケアマネ	事業所	ケアマネ	参加数	7	9	77	188	参加率	70.0%	32.1%	79.3%	62.4%	今後どのような研修を受講したいか		ヤングケアラー、ケアラー	3	地域ケアシステムについて	2	インフォーマルサービス	4	社会資源、地域とつながる連携	3	認知症対応	3	事例検討会	8	対人援助技術	3	家族支援	2	精神疾患について	3	A C P	4	ターミナルケア、看取り	7	生活保護制度	2	障がい保健サービスについて	3	他職種連携	4	医療連携、訪問診療	3	テーマ	本人の望む暮らしによりそう支援	連携状況	居宅介護支援事業所・社会福祉士事務所	参加事業所数	圏域内	居宅介護支援事業所	5		小規模多機能事業所	0		圏域外事業所	居宅介護支援事業所	4	参加者数	18名（会場 5名 ZOOM13名）	<p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本人や地域の強みを活かしたケアマネジメントが実践できるようになる。 （目標数値：全域 2回） （目標数値：圏域 1回） <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて本人や地域の強みを活かしたケアマネジメントの意識は高まったと言えるが、実践できるようになったかの確認には至っていない。 <p>○合同ケアマネジメント研修（全域） 令和4年10月12日、13日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の圏域内の事業所参加率は25%ケアマネジャーの参加率は0.9%であったが、今年度は大幅に増加しており、テーマに対する関心が高いものと判断できる。 ・アンケート結果から、事例検討を行い振り返り、学びの機会としたいと考えているケアマネジャーが多いことが分かった。圏域内研修や次年度研修に向けて参考とし企画開催する。 ・地域の強み（社会資源）を活かしたケアマネジメントができるよう次年度の圏域内の勉強会等でテーマとし取り上げ実践力につなげていく。 <p>○圏域内研修会（東東部圏域合同） 令和5年2月14日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修の振り返りも含め圏域の主任ケアマネジャーの事例の振り返りを通じて本人が望む暮らしによりそう支援について学ぶ機会とした。 ・圏域の主任ケアマネジャーと協働し内容を検討し、実際に関った後見人にも参加頂き開催することができた。成年後見制度についての講話も頂き成年後見制度の学びの機会とできた。 ・圏域居宅介護支援事業所の参加が50%となっているが、小規模多機能型居宅介護事業所の参加が昨年同様ないため、次年度の課題として研修の企画を行い、実施につなげる。
	R2年度	R3年度	R4年度																																																																											
開催回数	2	2	2																																																																											
	圏域内		全域																																																																											
	事業所	ケアマネ	事業所	ケアマネ																																																																										
参加数	7	9	77	188																																																																										
参加率	70.0%	32.1%	79.3%	62.4%																																																																										
今後どのような研修を受講したいか																																																																														
ヤングケアラー、ケアラー	3																																																																													
地域ケアシステムについて	2																																																																													
インフォーマルサービス	4																																																																													
社会資源、地域とつながる連携	3																																																																													
認知症対応	3																																																																													
事例検討会	8																																																																													
対人援助技術	3																																																																													
家族支援	2																																																																													
精神疾患について	3																																																																													
A C P	4																																																																													
ターミナルケア、看取り	7																																																																													
生活保護制度	2																																																																													
障がい保健サービスについて	3																																																																													
他職種連携	4																																																																													
医療連携、訪問診療	3																																																																													
テーマ	本人の望む暮らしによりそう支援																																																																													
連携状況	居宅介護支援事業所・社会福祉士事務所																																																																													
参加事業所数	圏域内																																																																													
	居宅介護支援事業所	5																																																																												
	小規模多機能事業所	0																																																																												
	圏域外事業所	居宅介護支援事業所	4																																																																											
参加者数	18名（会場 5名 ZOOM13名）																																																																													

令和5年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
1. ケアマネジャーが インテークの重要 性を再認識するこ とができる。	<p>1. ①合同ケアマネジメント研修の開催（全域）</p> <p>〈目的〉 多くのケアマネジャーが、インテークからアセスメント、ケアプラン立案、実施、モニタリング、再アセスメントに至る一連の過程で必要なスキルが向上し、自立支援を意識したケアマネジメントを行うことができる。</p> <p>〈テーマ〉 対象者及び家族の背景因子に着目し、個々に寄り添った対人援助ができる。</p> <p>〈研修形態〉 講義・演習 会場とWebを活用した開催とし、多くのケアマネジャーへ研修参加の機会とする。</p> <p>〈内容案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接の基本姿勢、心構えを学ぶ ・インテークの重要性 ・利用者、家族の本当の思いを引き出すための面接技術 <p>②圏域内研修（東央部圏域合同）</p> <p>〈研修形態〉 演習</p> <p>〈内容案〉 全体研修の振り返りとして、実践事例を参考に実際の面談場面を想定した演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の介護支援専門員と協働して開催し、特に主任ケアマネジャーの参画を働きかける。 ・集合研修を基本とし、新型コロナウイルスの感染状況によりWebの活用を検討する。 ・小規模多機能型居宅介護事業所等には事業所へ訪問し、参加しやすい状況の確認と共に、ケアマネジャーの学びの機会として活用頂くよう参加を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント研修開催回数 ・参加率 ・アンケート結果

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和4年度 活動評価																		
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																	
包括的・継続的ケアマネジメント体制の構築	<p>○主任ケアマネ連絡会 開催状況</p> <p>第1回 令和4年6月17日 参加：5事業所 7名 内容：①情報交換 特定事業所加算算定について 社会参加、社会資源について その他 ②センターから 個別ケア会議の開催について 弁護士との勉強会について</p> <p>第2回 令和4年9月14日 参加：8事業所 13名 内容：①事例紹介 相続手続きを怠ったケース（弁護士への相談） 保護入院につながったケース（警察と連携） ②事例検討 支援拒否のケースについて ③センターから 自立相談支援機関について</p> <p>第3回 令和5年1月17日 参加：5事業所 6名 内容：①情報交換 実地指導の共有 他事業所の取り組み 次年度に取り組みたいこと ②センターから 認知症カフェ開催について</p>	<p>【活動目標】</p> <p>2. 圏域内に在籍するケアマネジャー同士が意見交換を行う機会を持ち、連携強化や相談しやすい体制につなげる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主任ケアマネ連絡会を立ち上げ、圏域内のケアマネジャーが意見交換等を行う機会を作ることで、連携強化や相談しやすい体制につながった。 年度当初に圏域内の居宅介護支援事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所へ訪問しアンケート結果を報告し、課題の共有と勉強会等についてのニーズ調査を行い主任ケアマネ連絡会の内容に役立てることができた。 事例検討会や圏域内ケアマネジメント研修において、弁護士への相談事例や成年後見制度について情報提供を行い、介護保険外の公的支援制度について学ぶ機会を作ることができた。 R5.2.20湯川町1丁目町会開催の認知症予防カフェに圏域内の主任ケアマネジャー4名が参加することができたことでケアマネジャーが地域活動を知る機会ができた。また、カフェ終了後に民生児童委員と意見交換を行うことができ、「互いの役割や業務内容について知る機会があればいい」との意見があったことから、次年度は機会を作り連携強化につなげる。 圏域内の主任ケアマネジャーと協働での勉強会等の開催には至らなかったが、次年度以降で協働で取り組めるよう体制づくりを行う。 																	
	<p>○圏域内の居宅介護支援事業所等アンケート実施（13事業所） （重複回答あり）（件）</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">研修会や懇談会で取り上げて欲しいテーマ</td> </tr> <tr> <td>町会や民生児童委員等、地域支援者との交流</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>介護保険外の公的支援制度について</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ケアマネジャー同士の交流</td> <td>5</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（件）</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">高齢者支援において連携を図りたい他職種</td> </tr> <tr> <td>地域関係（町会・民生児童委員・社会資源）</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>警察</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>行政（高齢福祉課等）</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療関係</td> <td>2</td> </tr> </table>	研修会や懇談会で取り上げて欲しいテーマ		町会や民生児童委員等、地域支援者との交流	5	介護保険外の公的支援制度について	7	ケアマネジャー同士の交流	5	高齢者支援において連携を図りたい他職種		地域関係（町会・民生児童委員・社会資源）	6	警察	5	行政（高齢福祉課等）	2	医療関係	2
研修会や懇談会で取り上げて欲しいテーマ																			
町会や民生児童委員等、地域支援者との交流	5																		
介護保険外の公的支援制度について	7																		
ケアマネジャー同士の交流	5																		
高齢者支援において連携を図りたい他職種																			
地域関係（町会・民生児童委員・社会資源）	6																		
警察	5																		
行政（高齢福祉課等）	2																		
医療関係	2																		

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>2. 圏域内に在籍するケアマネジャーが地域との連携の必要性について理解ができる。</p>	<p>2. ①懇談会や勉強会、事例検討の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員や地域支援者、町会の活動内容を知る機会を作り、協働での支援体制の構築につなげる。 ・社会資源等を利用した事例検討会を行い、情報を共有し多様なニーズに対応する支援について学ぶ機会を設ける。 ・障がい支援事業所や弁護士事務所等、介護保険外の制度に関わる方々との情報交換の機会を作り関係構築に役立てる。 ・圏域内のケアマネジャーと協働して実施し、センター職員と圏域内のケアマネジャーの連携を強化する。 ・圏域内居宅介護支援事業所や小規模多機能型居宅介護事業所等から希望する研修テーマを聞き取り、課題を共有した上で勉強会等に反映する。また、次年度に向けた取り組みについても合わせて意見集約を行い、継続した開催体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会開催の有無 ・勉強会開催の回数 ・地域との連携についての意見集約と内容

(I) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法第115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和4年度 活動評価																												
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																											
個別ケースを検討する地域ケア会議	○個別ケースの検討を行う地域ケア会議の開催状況 (回)	【活動目標】 1. 地域ケア会議を行う事で地域住民と関係機関が高齢者への見守り体制の重要性や早期相談の有効性について共有できる。（目標：7回） 【評価】 ・早期相談や地域ケア会議の効果については令和5年2月に圏域内のケアマネジャーへ向けて、事例を用いて共有する機会を設けた。地域からの相談より地域ケア会議を開催する前後で、エコマップを作成し、支援体制や連携体制が厚くなっている事が共有できた。 ・地域や多機関で早期に情報共有する事で見守りの必要性や状態変化時に速やかな対応につながる事を確認できた。 ・年度内に11回実施し、目標数値を越えることができた。 ・ケアマネジャー担当ケースは2件実施し、早期に民生児童委員や地域住民とつながり、連携が取れる体制ができた。 ・地域からの「気になる高齢者」の相談から、センターの主任ケアマネジャーが中心となり、地域ケア会議の開催検討を行い、三職種が関わり早期に開催につなげることができた。 ・介護関係者の関わりを、拒否しているケースへは定期的に関わりのある医療機関や今後関わりが予測される多機関を交えて会議を開催する事ができた。 ・小規模多機能型居宅介護事業所に勤務するケアマネジャーへは、事業所訪問時やアンケート等で地域ケア会議の重要性について報告や確認する機会を持った。 ・開催6カ月後のモニタリングに関しては、担当職員が個々で確認のうえ経過記録に残し、必要時は再度開催の検討としている。 ・今年度はケアマネジャーが担当しているケースの開催が少なく、ケアマネジャーからの開催希望も無かった。圏域内のケアマネジャーが、地域ケア会議に対して苦手意識を持っている可能性があり次年度の課題としたい。 ・地域ケア会議から抽出された地域課題の整理から、独居高齢者の状況変化に対し周囲の理解や対応に困難している現状がみられる。変化に応じた連携先や情報共有の必要性について、継続して発信できる場として地域ケア会議を活用していく必要がある。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>128.5%</td> <td>157.1%</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度	R3年度	R4年度	目標数値	7	7	7	開催回数	7	9	11	達成率	100.0%	128.5%	157.1%												
		R2年度	R3年度	R4年度																									
	目標数値	7	7	7																									
	開催回数	7	9	11																									
	達成率	100.0%	128.5%	157.1%																									
	○ケース分類 (件)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>センター担当ケース</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>居宅介護支援事業所担当ケース</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域からの相談ケース</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>		R3年度	R4年度	センター担当ケース	1	2	居宅介護支援事業所担当ケース	5	2	地域からの相談ケース	3	7															
		R3年度	R4年度																										
	センター担当ケース	1	2																										
	居宅介護支援事業所担当ケース	5	2																										
地域からの相談ケース	3	7																											
○ケース背景・重複あり (件)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症（疑い含む）</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>精神疾患（疑い含む）</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>独居</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>同居家族が精神疾患（疑い含む）</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		R3年度	R4年度	認知症（疑い含む）	6	7	精神疾患（疑い含む）	3	4	独居	8	8	同居家族が精神疾患（疑い含む）	1	2													
	R3年度	R4年度																											
認知症（疑い含む）	6	7																											
精神疾患（疑い含む）	3	4																											
独居	8	8																											
同居家族が精神疾患（疑い含む）	1	2																											
○参加機関・重複あり (件)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域（民生委員等）</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>居宅介護支援事業所</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>介護保険サービス事業所</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>生活支援事業所</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>警察</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>法律関係者（弁護士）</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		R3年度	R4年度	地域（民生委員等）	9	11	行政	2	2	居宅介護支援事業所	5	3	介護保険サービス事業所	2	2	生活支援事業所	2	0	医療機関	1	3	警察	3	2	法律関係者（弁護士）	0	1	
	R3年度	R4年度																											
地域（民生委員等）	9	11																											
行政	2	2																											
居宅介護支援事業所	5	3																											
介護保険サービス事業所	2	2																											
生活支援事業所	2	0																											
医療機関	1	3																											
警察	3	2																											
法律関係者（弁護士）	0	1																											
○抽出された地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢女性の一人暮らしが、分譲マンションには多いように思う。何というわけではないが、今後に対する漠然とした不安を感じている方が多い。 ・気軽に相談できる場所として包括支援センターがある事を知らない人もいる。 ・精神疾患を持った方が通院の為に転居してくることが多い地域。どういう人かわからないと怖いイメージがあり、トラブルに繋がることもある。 ・親族がいない、または親族はいるが関わりを持ちたくないなどがあり、介入に苦慮するケースが多い。 ・独居高齢者の増加、家族関係が希薄になっており、地域での支え合い、見守り体制が必要。 ・少しでも心配に感じる高齢の買い物客に対して、生協の魚屋さんのように声掛けをしてくれたり、何かあれば相談できる先があると知ってもらうことで認知症のある方が一人暮らしをしていても、周囲も安心できる。相談先としてセンター等の周知が継続的に必要。 ・市住周辺の冬道が歩きにくく、外出頻度も低下しているのではないか。 																												

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. 地域ケア会議にて情報共有や連携体制の重要性について認識し、状態変化時に速やかに相談する事ができる (目標数値：7回)</p>	<p>1. ①地域での情報共有や見守りが必要なケースについては、相談を受けた時点で、早期に地域ケア会議の開催検討を行う。 ②地域支援者と各専門の関係機関をつなぎ、互いの役割や対応について知り、効果的に連携ができるよう進める。 ③個別のケースについての課題から、地域の課題について意見交換することで、普段からの関わりや情報共有の重要性について共有できる。 ④圏域内のケアマネジャーへ、地域ケア会議への理解を深める為に見学参加の声掛けを行っていく。実際に参加してみる事で、地域との情報共有や連携の重要性を実感していただく機会をつくる。 また、会議の目的や参加するメリット等について分かりやすいパンフレット等を作成し、圏域内に勤務するケアマネジャーへ配布する。 ⑤高齢者に関わる、地域支援者や関係機関、ケアマネジャーが状態変化時に速やかに対応できるよう、地域ケア会議の場を活用して連携体制を構築できるよう働きかける。 ⑥個別の地域ケア会議からの地域課題を分析して、地域支援者やケアマネジャーへの勉強会等へ反映する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催回数と目標達成率 ・ ケアマネジャーが地域の支援者との連携につなげられた回数 ・ 高齢者の地域支援者と多機関が連携できる仕組みづくりに向けて検討した回数

(I) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法第115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和4年度 活動評価							
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価						
個別ケースを検討する地域ケア会議	<p>○抽出された地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅の特性として、住人同士の交流はあるが受け止める側に問題があると拗らせてしまう。特に対象者が住んでいる棟は元々住人同士の交流が多い為、余計に周りから孤立してしまった。 ・市営住宅住民間で、トラブルが起きると人間関係が複雑化してしまう。住居している棟は元学校関係者が多く、格式が高いと思われるところもあり、新規入居者はなじみにくいのではないか。 ・町内は住宅地であり、1人で歩いている退職後と思われる男性を多く見るようになったが、周囲との関係性が薄い。 ・地域の特性として一軒家やマンションが多く以前は公的な仕事をしてきた人が多いと思われる。しかし、高齢になり地域や町会との関わりを断る人が多く、世帯構成が不明で防災時等の対応に困る。 ・マンションに長年入居している住民の高齢化や単身世帯が多くなっている。 ・介護保険制度や相談窓口を知らない人が多く、介護支援が必要な状態になった時には重度化している恐れがある。 ・アパート内での身寄りがいない方の高齢化に伴い、緊急時に入院となった時に連絡先がなく、支払いや部屋の片づけ等の手続きに困る。 ・病院でも身寄りのない方については、保証人がいないと転院できなかつたり、今回のケースのようにご自身で金銭管理する事ができない場合、対応に苦慮する。後見人等が決まる前に亡くなれると支払い等の手続きができない。元気なうちから何かあった時の連絡先や、公的な保証人等の確認、検討が必要である。 ・若年性認知症の方は行き場もないため家族が抱えるケースが多い可能性があり、必要な支援が行き届かない。若年性認知症の方に利用しやすい柔軟なサービス等が必要。 ・65歳未満の方だと、どこに相談してよいか判断に迷う。分かりやすい相談窓口についての案内が必要。 ・複数世帯、生活保護だと民生児童委員も関わりづらい印象がある。迷惑になるのではと感じて躊躇してしまう。ご近所との付き合いの少ない方だと見守りすることも難しい。地域との関わり合いの必要性の周知の継続が必要。 ・引っ越し、転居の時の挨拶のみで団地住人同士の付き合いが無く、家族状況等はわからないため異変に気付いても家族に確認したり知らせる事ができない。 							
自立支援型地域ケア会議	<p>○自立支援型地域ケア会議の開催状況 令和4年7月28日</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>参加専門職</th> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> </tr> <tr> <td>主任ケアマネジャー</td> </tr> </table>	参加専門職	理学療法士	作業療法士	管理栄養士	保健師	主任ケアマネジャー	<p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジャー等が専門職と連携し特に「身体的自立」に着目したケース検討を行うことで、自立支援に資するケアマネジメントを行うことができる。（目標数値：1回） <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターの担当ケースで会議を開催し専門職から意見をいただき、本人への助言やプラン見直しの機会となった。 ・センター内にて会議の報告とモニタリングを共有し、理解を深められた。
参加専門職								
理学療法士								
作業療法士								
管理栄養士								
保健師								
主任ケアマネジャー								

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. ケアマネジャー等 が、身体的自立に 着目したケアマネ ジメントを行う事 ができる。 (目標数値：1回)</p>	<p>1. ①圏域内の居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャーが自立支援型 ケア会議について理解できるよう、各事業所を訪問した際に手引きを 示しながら、会議の流れについて説明する。 ②ケアマネジャーが担当するケースから生活不活発病が予測される事例 を選定検討し、リハビリ専門職等と意見交換を行い本人や地域の強み を活かせるよう会議開催に向けて、書類準備等の支援を行う。 ○自立支援型地域ケア会議 ・令和5年5月25日：居宅支援事業所ケアマネジャー担当ケースを選定 し、会議進行を行う。 ③開催6カ月後にケース担当のケアマネジャーへ、会議後の状況変化に ついてモニタリングを行う。</p>	<p>・圏域内の居宅支援事 業所に勤務するケア マネジャーが身体的 自立について専門職 と連携して、ケース 検討を行った回数</p>

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和4年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
地域課題の検討を行う地域ケア会議	<p>○地域課題の検討を行う地域ケア会議の開催状況 (回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>125.0%</td> <td>175.0%</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度	R3年度	R4年度	目標数値	4	4	4	開催回数	4	5	7	達成率	100.0%	125.0%	175.0%	<p>【活動目標】</p> <p>1. 地域ケア会議を通じて町会役員が他町会の活動を知ることによって地域の垣根を越えた活動ができる。 (目標数値：4回)</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多町会と多世代の垣根を越えて、地域内でイベントを実施する事ができた。今後の地域づくりに向けて協働できる事を実感し、具体的な案について活発な意見交換ができた。 ・深堀町会と東深堀町会が近隣の小中学生と一緒にイベントやボランティア活動に向けて、意見交換を実施できた。 ・上記の具体案から、深堀町会が多世代で目的を持って触れ合う機会を検討し地域の人材を活かして学生へ向けてのSDGs等の勉強会の実施ができた。 ・湯川1丁目町会では高齢者が災害時の情報収集に苦慮している課題から、学生ができる地域支援としてスマホ教室の開催につながっている。 ・今年度は7回実施し、目標数値を越える事ができた。また、他町会の活動を学びとして実施できた連携から、学生が地域支援の活動を希望している現状も分かり、効果的に展開できた。次年度も引き続き、地域へ働きかける必要がある。 <p>【活動目標】</p> <p>2. 地域住民に各町会の取り組みを伝えることで地域活動に興味を持つ人が増える。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の評価として、多世代多機関が、町会の活動や現状を知ることによって、自分達の役割や地域支援への意識を持つことができた。次年度も他町会へ展開する必要がある。 ・圏域内の町会だよりを収集しセンター内の玄関に掲示して訪問者が閲覧できるようにしている。他町会の取り組みが確認できるよう取り組んでいる。 ・センターと圏域内の町会が協働で取り組んだ事業の新聞記事や、写真を玄関の掲示板で紹介し、地域内で共有して包括の役割を周知する機会とした。 ・今年度中に圏域内の全体会は開催できずにいたが、各町会でできたそれぞれの連携について、次年度は共有できる場を持ち、他町会の活動展開に提案できるようにはたらきかける。
		R2年度	R3年度	R4年度														
	目標数値	4	4	4														
	開催回数	4	5	7														
	達成率	100.0%	125.0%	175.0%														
	<p>○開催内容・参加機関</p> <p>①令和4年7月1日 湯川三丁目会館</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>湯川三丁目</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>町会活性化への取り組みを検討する</td></tr> <tr><td>内容</td><td>課題に向けて～意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>13名（町会役員、市民・男女共同参画課、町会連合会、町会活性化アドバイザー）</td></tr> </table>	対象地域	湯川三丁目	テーマ	町会活性化への取り組みを検討する	内容	課題に向けて～意見交換	参加機関	13名（町会役員、市民・男女共同参画課、町会連合会、町会活性化アドバイザー）									
	対象地域	湯川三丁目																
	テーマ	町会活性化への取り組みを検討する																
	内容	課題に向けて～意見交換																
	参加機関	13名（町会役員、市民・男女共同参画課、町会連合会、町会活性化アドバイザー）																
<p>②令和4年7月5日 市営深堀団地 集会室</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>深堀町</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>町会の垣根を越えて一緒に取り組む活動</td></tr> <tr><td>内容</td><td>協働して取り組める事～意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>8名（町会役員、在宅福祉委員、小学校教頭、中学校教頭）</td></tr> </table>	対象地域	深堀町	テーマ	町会の垣根を越えて一緒に取り組む活動	内容	協働して取り組める事～意見交換	参加機関	8名（町会役員、在宅福祉委員、小学校教頭、中学校教頭）										
対象地域	深堀町																	
テーマ	町会の垣根を越えて一緒に取り組む活動																	
内容	協働して取り組める事～意見交換																	
参加機関	8名（町会役員、在宅福祉委員、小学校教頭、中学校教頭）																	
<p>③令和4年7月21日 函館市立深堀中学校 図書室</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>深堀町</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>小学校児童と地域の交流、連携について</td></tr> <tr><td>内容</td><td>意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>7名（深堀小学校PTA、小学校教頭）</td></tr> </table>	対象地域	深堀町	テーマ	小学校児童と地域の交流、連携について	内容	意見交換	参加機関	7名（深堀小学校PTA、小学校教頭）										
対象地域	深堀町																	
テーマ	小学校児童と地域の交流、連携について																	
内容	意見交換																	
参加機関	7名（深堀小学校PTA、小学校教頭）																	
<p>④令和4年9月11日 函館市立深堀中学校 体育館</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>深堀町</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>多世代で町会活動活性化取り組みを検討</td></tr> <tr><td>内容</td><td>意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>21名（地域住民、町会役員、中学生徒、小学生児童）</td></tr> </table>	対象地域	深堀町	テーマ	多世代で町会活動活性化取り組みを検討	内容	意見交換	参加機関	21名（地域住民、町会役員、中学生徒、小学生児童）										
対象地域	深堀町																	
テーマ	多世代で町会活動活性化取り組みを検討																	
内容	意見交換																	
参加機関	21名（地域住民、町会役員、中学生徒、小学生児童）																	
<p>⑤令和4年10月26日 センターゆのかわ 多目的ホール</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>深堀町</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>多世代が町会で触れ合える取り組みを検討</td></tr> <tr><td>内容</td><td>意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>2名（町会役員）</td></tr> </table>	対象地域	深堀町	テーマ	多世代が町会で触れ合える取り組みを検討	内容	意見交換	参加機関	2名（町会役員）										
対象地域	深堀町																	
テーマ	多世代が町会で触れ合える取り組みを検討																	
内容	意見交換																	
参加機関	2名（町会役員）																	
<p>⑥令和4年11月10日 函館工業高等学校</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>湯川1丁目</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>高齢者へ向けて多世代で協力し合えること</td></tr> <tr><td>内容</td><td>意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>7名（町会役員、高校教員、高校生徒）</td></tr> </table>	対象地域	湯川1丁目	テーマ	高齢者へ向けて多世代で協力し合えること	内容	意見交換	参加機関	7名（町会役員、高校教員、高校生徒）										
対象地域	湯川1丁目																	
テーマ	高齢者へ向けて多世代で協力し合えること																	
内容	意見交換																	
参加機関	7名（町会役員、高校教員、高校生徒）																	
<p>⑦令和4年11月14日 函館市立深堀小学校 図書室</p> <table border="1"> <tr><td>対象地域</td><td>深堀町</td></tr> <tr><td>テーマ</td><td>児童やPTAが地域と交流、連携について</td></tr> <tr><td>内容</td><td>意見交換</td></tr> <tr><td>参加機関</td><td>5名（深堀小学校PTA）</td></tr> </table>	対象地域	深堀町	テーマ	児童やPTAが地域と交流、連携について	内容	意見交換	参加機関	5名（深堀小学校PTA）										
対象地域	深堀町																	
テーマ	児童やPTAが地域と交流、連携について																	
内容	意見交換																	
参加機関	5名（深堀小学校PTA）																	

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. 他町会の活動内容や効果を知ること、各町会の課題に合わせた活動展開につなげられる。 (目標数値：4回)</p>	<p>1. ①圏域内の他町会での先駆的な取り組みや効果的な連携について紹介する機会を持ち、各町会が抱える問題や現状について意識が持てるよう全体会、又は町会単位で地域ケア会議を実施する。 ②各町会特有のニーズや問題の聞き取りから多世代多機関との意見交換を行い、課題に対し具体的な取組みにつなげる為の提案や助言を行う。 ③意見交換から、高齢者も含めて多世代や各機関が地域での活動に取り組み、参加につなげられるよう、働きかける。 ④他町会の取り組みを例として、圏域内の地域密着型の施設との連携や地域支援者、多世代が主体的に地域での役割を意識できるように働きかける。 ⑤地域での役割や地域支援についての意向を吸い上げ、町会や世代を越えた交流の機会や、地域づくりに取り組めるよう働きかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 ・他町会の取り組みを効果的に発信した回数 ・地域づくりについて多世代、多機関が互いに協働できることについて検討した回数

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和4年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
地域課題の検討を行う地域ケア会議	<p>○抽出された地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会の必要性を知ってもらう為、リーフレット等を作成し町会加入促進に取り組む。 ・子供や親世代を巻き込み、町会活動を知ってもらうような仕組みを作る。 ・町会の垣根を越えて取り組める仕組みを作る。 ・小学校、中学校とも協働して取り組める活動の仕組みを作る。 ・児童や保護者に各町会活動を知る機会を持てるよう、学校向けの町会だより作成やSNSを活用できる仕組みを作る。 ・地域を知る機会が持てるよう、地域の支援者や他機関と共にSDGsを意識した取り組みを実施する。 ・深堀中学校区内の地域と、小中学校が協働で取り組むことにより、地域の連帯感を深める。 ・児童生徒および保護者が地域活動に対する関心を高めることができる。 ・共に活動する事により他町会の活動から学び、自町会に活かすことができる。 ・地域に在住する人材を発掘活用して、多世代で交流できる仕組みを作る。 ・多世代に町会館に足を運んでもらい、町会の役割や入会の効果について周知できる。 ・高齢者でも情報を受け取りやすいスマホの使い方を、学ぶ機会をつくる。 ・多世代交流を通して、地域での情報共有が意欲的にできるようになる。 ・小学生児童やPTAが地域での自分の役割を意識し、参加できるようになる。 ・地域の支援者や他機関と共に協働して、地域活動の取り組みを行うようになる。 	

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

イ 生活支援体制整備事業

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

【根拠法令】 介護保険法第115条の45第2項第5号

【目的】 地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を行う。

事業内容	令和4年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
住民主体の助け合い活動等の仕組みの創出及び充実	<p>○ネットワーク構築した機関 94件うちSC62件 （新規ネットワーク構築 63機関） （町会関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> 湯川1丁目在宅福祉委員会、駒場自治会、湯浜町会 日吉第六団地自治会 （教育関係） 南本通小学校、南本通小学校CS、巴中学校、巴中学校CS 函館ラ・サール高等学校、北海道函館大学函館校 北海道函館工業高等学校、北海道函館工業高等専門学校 函館工業高等専門学校、函館厚生院看護専門学校 函館市医師会看護・リハビリテーション学院 駒場認定こども園、認定こども園函館深堀保育園 （医療関係） 富田病院、函館渡辺病院、北海道社会事業協会函館病院 宮本整形外科、やまびこ治療院、おおたに調剤薬局 ココカラファイン薬局函館駒場店、アイン薬局日吉店 はこだて調剤薬局湯川店、アサヒ調剤薬局深堀支店 （金融機関） 函館柏木郵便局、湯川温泉郵便局、北洋銀行湯川支店 新函館農業協同組合函館支店、函館商工信用組合湯川支店 （その他） 株式会社リージャスト、函館視力障害センター 道南ジェンダー研究ネットワーク、函館市企業局交通部 その他27カ所（個人商店、コンビニ、ドラックストア等） <p>○懇談会の開催 21回 ふれあい事業 1回 その他（懇談会に至らない意見交換） 40回</p> <p>○地域での支え合いの必要性に関する周知回数 19回 ・出前講座（18回）、広報紙リーフレット配布（1回）</p> <p>○助け合い活動の仕組みの創出・充実支援 34回 （7団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> 深堀町健康サークル、湯川温泉町会健康づくり教室 深堀町会、ぶらりふかぼり、湯川3丁目町会 東深堀町会、湯川1丁目町会 <p>○地域と学校の協働活動 7事業</p> <ul style="list-style-type: none"> もったいない市in深中 深堀町会、東深堀町会×深堀中学校、深堀小学校 ぶらりふかぼり 深堀町会×深堀小学校、函館聾学校 全市一斉秋のクリーングリーン作戦 深堀中学校校区内町会×深堀中学校 深堀ひろば 深堀町会×深堀中学校、深堀小学校 シニア世代のスマホ教室 湯川1丁目町会×北海道工業高等学校 町会だよりの刷新、ゆるキャラ募集、アンケート調査 湯川3丁目町会×湯川小学校 認知症予防カフェ 湯川1丁目町会×湯川小学校 	<p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域での支え合いの仕組みづくりのため、地域にある関係機関とのネットワーク構築について、新規開拓および継続的に取り組む。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、多世代多分野に関わる機関とネットワーク構築ができた。 多分野の団体や、高齢者の日常生活に関わる個人経営者に対し働きかけができたことは大変効果的だった。 今後も機会を逃さず意見交換の機会を持ち、ニーズの把握に努めたい。 <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域学校協働活動において、地域と学校がつながり、高齢者の社会参加の機会ができる。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校と地域が連携し、一緒に活動する機会を複数回作ることができた。活動の中で、地域の高齢者が児童生徒への指導や見守り役となり活躍できしており、目標は達成できた。次年度に向け活動機会の維持、増回に努めたい。 <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 新たな活動に取り組みたい団体が地域特性に合わせ効果的な展開ができる <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各町会や関係機関から把握したニーズについて、効果的な展開を共に検討や提案し、必要なマッチングを行うことで新たに9種類の企画の展開ができた。 様々な世代のニーズを正しく把握しながら、地域特性に合わせた取り組みが必要と考える。今後、より多くの地域で展開が進むよう継続的に取り組みたい。 <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 町会等が先駆的な取り組み例を知り社会参加や助け合い活動の重要性について知る。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先駆的な取り組みについて、全市的に多機関の方々へ発信する機会を2度設ける事ができた。他センターへの周知にもつながり、効果的な機会となったと評価できる。いくつかの機関から問い合わせもあり、多くの地域において意識の高まりにつながるよう展開を継続したい。

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. 地域での支え合いの仕組みづくりのため、地域にある関係機関とのネットワーク構築について、新規開拓および継続的に取り組む。</p> <p>2. 地域学校協働活動において、地域と学校がつながり、高齢者の社会参加の機会ができる。</p> <p>3. 新たな活動に取り組みたい団体が地域特性に合わせ効果的な展開ができる。</p> <p>4. 町会等が先駆的な取り組み例を知り社会参加や助け合い活動の重要性について知る。</p> <p>5. 創出できた社会資源が継続的に展開できる。</p>	<p>1.</p> <p>①地域にある各関係機関の新規開拓やニーズの把握を行う。</p> <p>②既に関わりのある団体との継続的なネットワーク構築及び新たなニーズについて意識的に把握する。</p> <p>③出前講座、広報紙配布、見守りネットワーク事業等のセンター業務を通じて、地域での支え合いの必要性について、地域住民や関係機関に対して周知する機会を持つ。</p> <p>2.</p> <p>①地域学校協働活動に参加し、学校や地域のニーズを把握する。</p> <p>②各高齢者の得意なことや、できることについて意識的に把握する。</p> <p>③高齢者が得意分野を活かし、多世代に向け社会参加できる場を調整する。</p> <p>④学校と地域がお互いの強みを活かし効果的につながり、協働できるような提案し、サポートする。</p> <p>3.</p> <p>①各機関から把握したニーズを基に新たな活動に取り組みたい団体を抽出する。</p> <p>②新たな活動につながりそうな団体に対し、懇談会等を重ね実現可能な方法について検討・提案する。</p> <p>③ニーズのある団体のマッチングを行う。</p> <p>④団体の取り組みが、仕組みとして地域に展開されるよう支援する。</p> <p>4.</p> <p>①先駆的な取り組み例を広報紙等へ掲載し配布する。</p> <p>②出前講座や懇談会等を開催し、社会参加や住民主体の助け合い活動等について周知する。</p> <p>③町会だよりの掲示等、集いの場を活用し他の町会の活動について情報を得られるようにする。</p> <p>5.</p> <p>①高齢者がお散歩マップを効果的に活用できるよう、適宜助言する。</p> <p>②歩こう会が高齢者に積極的に活用されるよう、適宜助言する。</p> <p>③おたすけ隊が継続的かつ充実した展開となるよう、適宜助言する。</p> <p>④ぶらりふかぼりが地域特性に合わせ効果的に活用されるよう、適宜助言する。</p> <p>⑤生じる課題に早期に気づき助言できるよう、各団体代表者と定期的に意見交換を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規開拓機関数 ・継続機関数 ・地域での支え合いの必要性に関する周知回数 ・地域学校協働活動の参加数 ・ニーズを把握した機関数 ・懇談会開催数 ・マッチング数 ・効果的な支援回数 ・広報紙への掲載有無 ・町会だよりの掲示町会割合 ・町会活動が掲載された新聞の掲示数 ・周知回数 ・各団体代表との意見交換数 ・継続割合

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和4年度 活動評価																													
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																												
住民主体の助け合い活動等の仕組みの創出及び充実	<p>○新たな活動に取り組んだ団体数4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東深堀町会、深堀町会、湯川1丁目町会、湯川町3丁目町会 <p>○先駆的な取り組み例の発信数2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【函館市福祉のまちづくりフォーラム】 令和5年3月20日（月）フォーポイントバイシェラトン函館 事例報告「共に支え合うまち函館を目指して ～つながりが育む支え合い～」 会場参加96名、オンライン参加 119名 ・【町会活性化モデル事業】 令和5年2月16日（木） 函館市民会館 取り組み事例報告「他団体との連携及び情報発信の強化」 <p>○自主活動支援</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湯川温泉町会</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>深堀町会</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>川原町会</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(回)</p> <p>○参加人数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平均参加人数</th> <th>最大</th> <th>最低</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湯川温泉町会</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>深堀町会</td> <td>10.6</td> <td>11</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(人)</p>		R3年度	R4年度	R4年度	湯川温泉町会	3	5	2	深堀町会	7	8	10	川原町会	6	2	0		平均参加人数	最大	最低	湯川温泉町会	17	17	17	深堀町会	10.6	11	8	<p>【活動目標】</p> <p>5. 創出できた社会資源が継続的に展開できる。</p> <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの社会資源も継続的に、地域性やメンバーに合わせ展開できており、目標は達成できている。 ・その年ごとの課題が生じる事が予想されるため、次年度も継続し、適宜支援していきたい。 <p>【活動目標】</p> <p>6. 各自主活動グループが自分たちに合ったやり方で、集いの場としての活動を自主的に運営することができる。</p> <p>【評 価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯川温泉町会、深堀町会に関しては適宜リーダーと開催や内容の共有を継続して行うことで、自主的な活動をすることができた。しかし、川原町会については活動実績は0回であり、活動が停滞している。 ・湯川温泉町会については、リーダーの交代があり、参加者とリーダーの活動に対する意識等違いがあり、スケジュールや内容について、それぞれの意向に添えるよう、方向性を一緒に考える時間を設けた。 ・次年度から場所や活動日に変更となり今まで継続的に参加してきた方が違和感なく参加でき、また新規に参加する方が増えるよう助言等していくことが必要である。 ・今後も各グループに合わせて活動が滞りなく継続し、地域の通いの場としての機能がはたせるよう関わっていききたい。
		R3年度	R4年度	R4年度																										
湯川温泉町会	3	5	2																											
深堀町会	7	8	10																											
川原町会	6	2	0																											
	平均参加人数	最大	最低																											
湯川温泉町会	17	17	17																											
深堀町会	10.6	11	8																											

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>6. 自主活動の参加者が住民主体の助け合いの重要性について理解し、活動を継続することができる。</p>	<p>6. ①参加者に対して情報提供や運動を実施する。 ②必要時、関係機関への連絡調整や関係構築に向けた助言を行う。 ③住民主体の助け合い活動の重要性を周知する。 ④リーダーや参加者と参加状況や活動内容について情報共有する。 ⑤活動において課題がある場合、適宜リーダーや参加者へ支援する。 ⑥活動が停滞しているグループについては、必要時センターから状況の確認等働きかける。</p>	<p>・自主活動支援回数</p>

ウ 認知症総合支援事業

(ア) 認知症地域支援・ケア向上事業

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第6号

【目的】認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症地域支援推進員を中心として、医療・介護等の連携強化等による、地域における支援体制の構築と認知症ケアの向上を図る。

事業内容	令和4年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
地域住民に対する認知症の正しい理解と地域の見守りについての普及啓発	<p>○広報紙記載 掲載数1回</p> <p>○認知症サポーター養成講座の開催4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リード不動産 2名、集合住宅入居者11名 ・函館大学付属有斗高等学校全道ボランティア大会参加者12名 ・駒場小学校 4年生児童28名 ・深堀小学校 4年生児童 <p>○2022世界アルツハイマー月間 in はこだてへの参加（認知症地域支援推進員として協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで知ろう！認知症コーナー」 蔦屋書店（R4.9.16） ・五稜郭タワーライトアップセレモニー参加（R4.9.21） ・オレンジらんはこだて参加（R4.9.21） <p>○認知症ケアパスの配布 250冊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体への配布数 19冊 ・個人（個別相談場面等）への配布数 231冊 <p>○認知症カフェの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯川1丁目町会、主任介護支援専門員との共同開催 1回 「認知症予防カフェ」（R5.2.20） <p>○出前講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施3回 <p>○地域ケア会議の開催（見守り体制の構築を検討した回数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースを検討する地域ケア会議での検討7回 <p>○研修会参加回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員研修 参加3名 	<p>【活動目標】</p> <p>1. 認知症の正しい理解者や見守りの重要性がわかる人が増える。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通し、多世代や多機関の方々へ広く周知することができた。 ・広報紙は今年度、配布先を拡大しており、より多くの方へ発信できた。 ・認知症サポーター養成講座は、新規で実施できた機関もあり、継続的に展開していきたい。 ・認知症ケアパスは、出前講座や個別の面接時に意識的に活用することができ、今後も継続して活用していきたい。交流の機会にもなった。今後も効果的な展開となるよう工夫しながら実施したい。 ・認知症カフェを実施できており、またその中で湯川中学校との交流も行っている。中学生が作成した「湯川マップ」の紹介を受け、実際に町会でお散歩を行う事にもつながっており、介護予防にもつながったことは評価できる。 ・出前講座では、認知症の初期症状の気付きのポイントや対応方法に重点を置きながら実施している。今後も、対象者のニーズに合わせてながら効果的な機会となるよう進めていきたい。 <p>【活動目標】</p> <p>2. 必要時、認知症初期集中支援チームを活用し、早期診断、早期対応を行う。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チームの活用件数は0件であるが、都度緊急時や必要な場合は医療機関と連携し対応している。今後も引き続き連携を取りながら、対象者が専門医受診から適切な治療につながるよう支援していきたい。

令和5年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>1. 認知症の正しい理解者や見守りの重要性がわかる人が増える。</p> <p>2. 必要時、認知症初期集中支援チームを活用し、早期診断早期対応を行う。</p>	<p>1.</p> <p>①広報紙等を活用し、認知症の初期症状や地域の見守りについて周知する。</p> <p>②認知症サポーター養成講座を開催する。 ・既に実施している団体については継続実施の打診をする。 ・湯川小学校、函館医師会看護・リハビリテーション学院、国立病院機構函館病院への講座再開の打診を行い、またニーズの高い団体に対し開催を打診する。</p> <p>③キャラバンメイトの今後の活動について検討する（市内推進員協働） ・キャラバンメイトとの連携についての検討や情報共有を行う。 ・ステップアップ講座の検討をする。</p> <p>④出前講座を実施する。 ・一般的な認知症だけではなく初期症状について重点的に実施する。 ・町会や地域の支援者へ開催を打診。</p> <p>⑤認知症カフェを実施する。 ・湯川1丁目町会との継続した協働開催に向け検討する。 ・函館医師会看護・リハビリテーション学院と湯川町3丁目町会の新規開催にむけ後方支援を行う。 ・開催を希望する事業所へ随時後方支援を行う。</p> <p>⑥函館市認知症ケアパスを配布する。 ・個別支援時に適宜積極的に活用する。 ・関係機関へ配布し、広く周知する。</p> <p>⑦地域ケア会議において支援や見守り体制の構築方法を検討する。 ・個別ケースを検討する地域ケア会議での検討を行う。</p> <p>⑧世界アルツハイマー月間inはこだてを実施する（市内推進員協働）。 ・五稜郭タワー、函館市中央図書館、蔦屋書店等を活用した周知。</p> <p>⑨認知症地域支援推進連絡会へ参加する。 ・市内推進員との情報交換等により、効果的な地域展開の検討をする。</p> <p>⑩認知症地域支援推進員研修及び認知症に関する研修へ参加する。 ・職員のスキルアップのため、力量に合わせた研修への参加を検討する。</p> <p>2.</p> <p>①認知症初期集中支援チームと連携し展開する。 ・相談事例の提供 ・チーム員会議への参加</p>	<p>・広報紙への掲載数</p> <p>・認知症サポーター養成講座開催数</p> <p>・認知症に関する出前講座回数</p> <p>・認知症ケアパス配布数</p> <p>・認知症カフェ実施回数（後方支援含む）</p> <p>・見守り体制の構築方法の検討回数</p> <p>・研修会参加数</p> <p>・チーム員会議参加数</p>